

2026年6月3日版（第2版）

# 日本比較教育学会 第62回大会プログラム

Japan Comparative Education Society  
The 62nd Annual Conference

日時：2026年7月3日（金）～5日（日）  
場所：立命館大学 衣笠キャンパス  
主催：日本比較教育学会  
共催：立命館大学

Dates: July 3–5, 2026  
Location: Kinugasa Campus, Ritsumeikan University  
Organized by: Japan Comparative Education Society  
Co-organized by: Ritsumeikan University

## ご挨拶

日本比較教育学会第 62 回大会を、立命館大学衣笠キャンパスにおいて開催いたします旨、謹んでご案内申し上げます。

立命館大学衣笠キャンパスは、京都市の西北に位置し、金閣寺や龍安寺をはじめとする多くの歴史的な名所に囲まれた環境にあります。文化遺産に恵まれたこの地において、本学は地域社会との連携を重視しながら、未来に向けた教育・研究活動に積極的に取り組んでまいりました。その一環として、2026 年 4 月には「デザイン・アート学部」および「デザイン・アート学研究科」を新たに開設し、社会科学・人文科学および自然科学の各分野にわたり、17 の学部と 22 の研究科を擁する総合大学として、教育研究のさらなる発展に努めております。

歴史と未来が交差する京都・衣笠の地において、本大会では、世界が直面する教育課題について、各国・各地域の事例を比較しつつ、会員の皆さまとともに多角的な議論を深める場としたいと考えております。地政学的緊張、経済格差、AI の進展など、急速に変化する社会状況の中で、比較教育学の果たすべき役割を展望する貴重な機会となれば幸いに存じます。

本大会では、ラウンドテーブル 10 件、自由研究発表 149 件に加え、公開シンポジウムおよび 2 つの課題研究を予定しております。さらに、7 月 4 日および 5 日の昼食時間帯には、学会創設 60 周年記念企画、ブックトーク、若手研究者交流会も開催いたします。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第 62 回大会準備委員会委員長  
羽谷 沙織（立命館大学）

## Greetings

It is our greatest pleasure to announce that the 62nd Annual Conference of the Japan Comparative Education Society will be held at the Kinugasa Campus of Ritsumeikan University.

Located in the northwestern area of Kyoto City, the Kinugasa Campus is surrounded by numerous historic landmarks, including Kinkaku-ji (the Golden Pavilion) and Ryoan-ji Temple. In this culturally rich environment, Ritsumeikan University has long been committed to advancing education and research while fostering strong ties with the local community. As part of these efforts, in April 2026, the University established the College of Design and Art and the Graduate School of Design and Art. Today, as a comprehensive university comprising 17 undergraduate colleges and 22 graduate schools across the social sciences, humanities, and natural sciences, Ritsumeikan continues to promote the further development of education and research.

Situated at the intersection of history and future innovation in Kyoto's Kinugasa district, this conference seeks to provide a forum for in-depth and multifaceted discussions on the educational challenges facing the world today, drawing on comparative perspectives across countries and regions. In a rapidly changing global context marked by geopolitical tensions, economic disparities, and the advancement of artificial intelligence, we hope this conference will offer a valuable opportunity to reflect on the evolving role of comparative education.

The conference will feature 10 roundtable sessions, 149 individual presentations, a public symposium, and two thematic research sessions. In addition, during the lunchtime periods on July 4 and 5, special events will be held, including a 60th anniversary commemorative program, book talks, and a networking event for early-career researchers. We sincerely look forward to your participation.

**Dr. Saori Hagai**

Chair, Organizing Committee

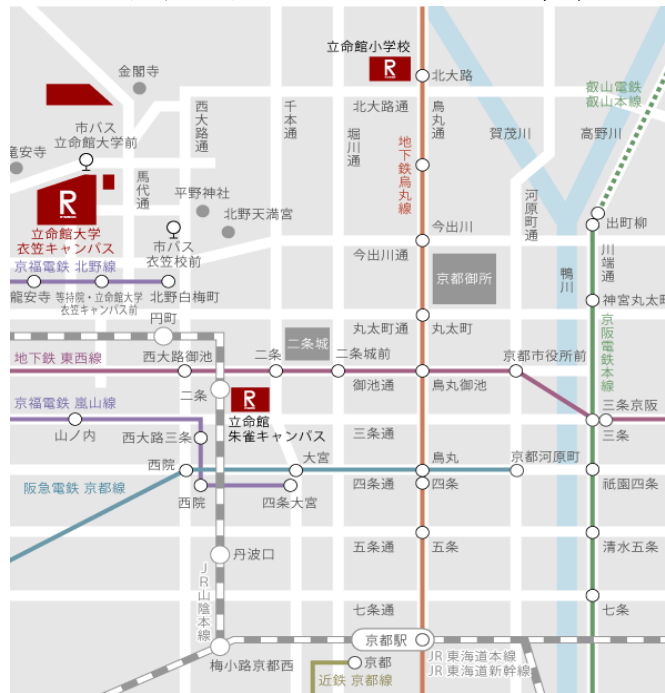
62nd Annual Conference of the Japan Comparative Education Society  
Ritsumeikan University

## 目次 Table of Contents

ご挨拶	Greetings	2
目次	Table of Contents	4
会場案内	Venue Information	5
大会日程	Program Timetable	11
大会参加者へのご案内	Conference Information and Procedures	12
自由研究発表注意事項 ＜大会プログラム＞	Guidelines for Presenters	16
ラウンドテーブル	Roundtable Sessions	19
自由研究発表 I	Research Presentation Session I	24
60周年記念企画	JCES 60 <sup>th</sup> Anniversary Commemorative Event	29
自由研究発表 II	Research Presentation Session II	30
公開シンポジウム	Public Symposium	33
自由研究発表 III	Research Presentation Session III	35
ブックトークセッション	Book Talk Sessions	40
若手研究者交流会	Networking for Early-Career Researchers	42
自由研究発表 IV	Research Presentation Session IV	43
課題研究	Thematic Research Sessions	46

# 会場案内 Venue Information

## 立命館大学 衣笠キャンパスの位置



### 移動方法と所要時間

#### 衣笠キャンパスへの交通機関

交通機関	路線/バス番号	所要時間	目的地
JR・近鉄 京都駅 (丸丸中央口)	市バス 50	約42分	立命館大学前(終点)
	市バス 快速立命館	約36分	立命館大学前(キャンパス内)
	市バス 205	約38分	衣笠校前 徒歩10分
阪急 西院駅	JRバス 高雄・京北線	約30分	立命館大学前
	市バス 205	約13分	衣笠校前 徒歩10分
	市バス 快速立命館	約15分	立命館大学前(キャンパス内)
市営地下鉄 西大路御池駅	市バス 53	約18分	立命館大学前
	市バス 205	約9分	衣笠校前 徒歩10分
	市バス 快速立命館	約11分	立命館大学前(キャンパス内)
京阪 三条駅	市バス 15	約34分	立命館大学前(終点)
	市バス 59	約40分	立命館大学前
J R 円町駅	市バス 15	約10分	立命館大学前(終点)
	市バス 快速立命館	約8分	立命館大学前(キャンパス内)
	市バス 204	約5分	衣笠校前 徒歩10分
	市バス 205	約9分	立命館大学前
京福電鉄 等持院・立命館大学 衣笠キャンパス前駅		徒歩6分	

※1 一般来場者用駐車場はありません。

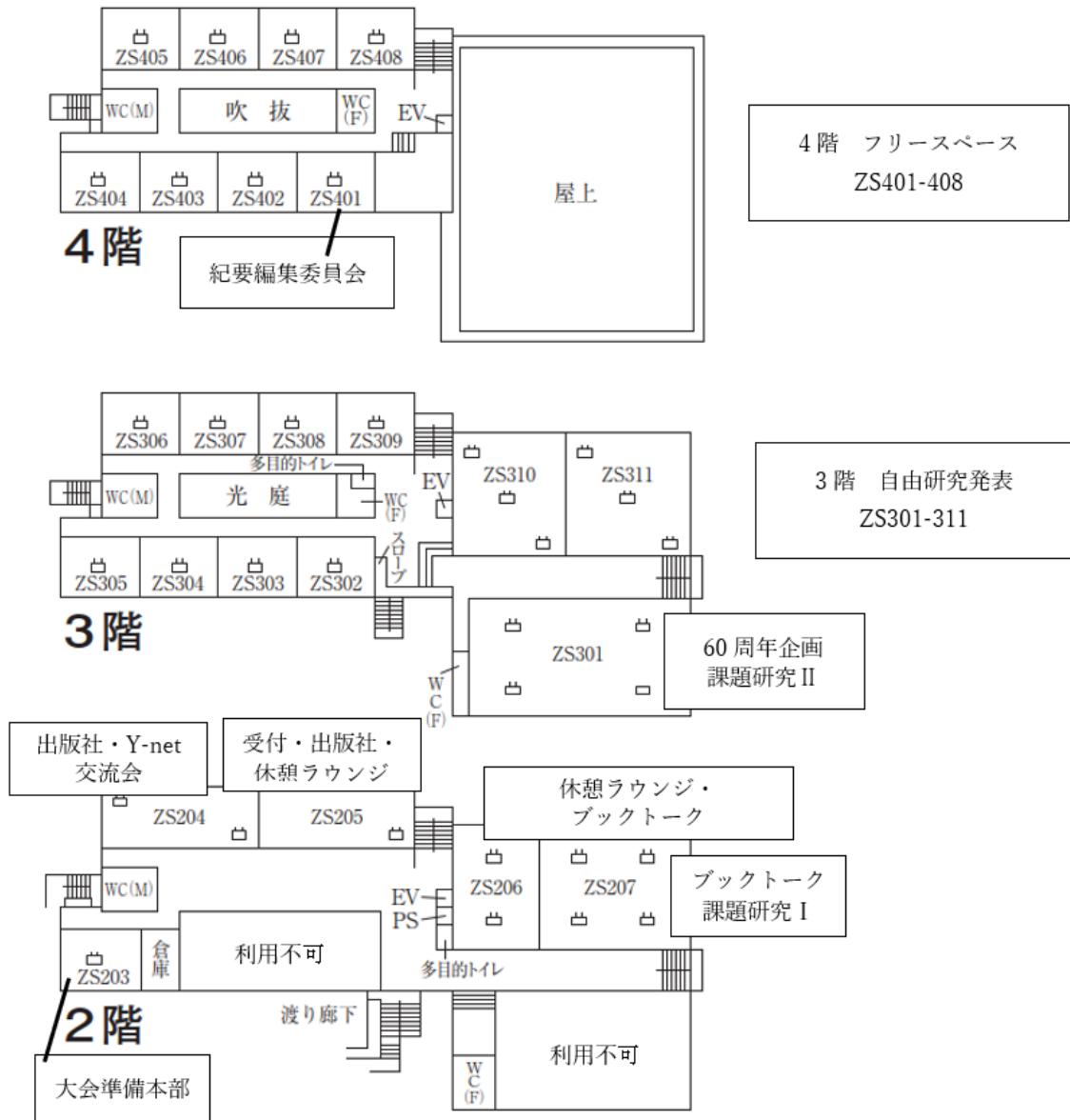
※2 Access to Ritsumeikan University Kinugasa Campus (Access and Directions in English)  
<https://en.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=246772&f=.pdf>

## キャンパスマップ Campus Map

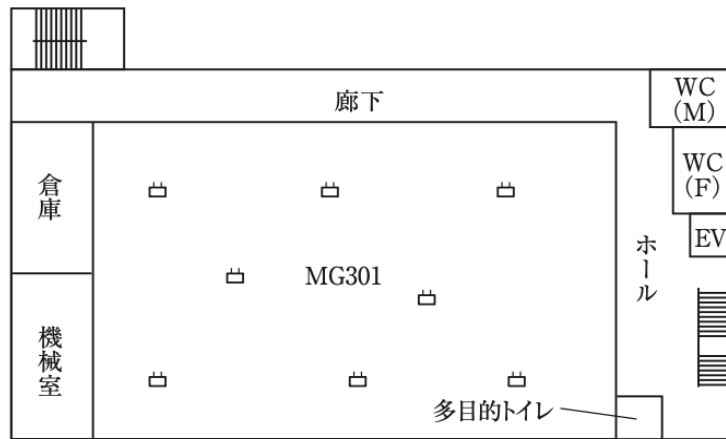


日程	建物	目的
7月3日 金曜日	志学館 しがくかん	ラウンドテーブル
7月4日 土曜日	存心館 ぞんしんかん	受付、課題研究、自由発表
	明学館 めいがくかん	シンポジウム・総会会場
7月5日 日曜日	存心館 ぞんしんかん	受付、課題研究、自由発表

# メイン会場 存心館 フロアマップ

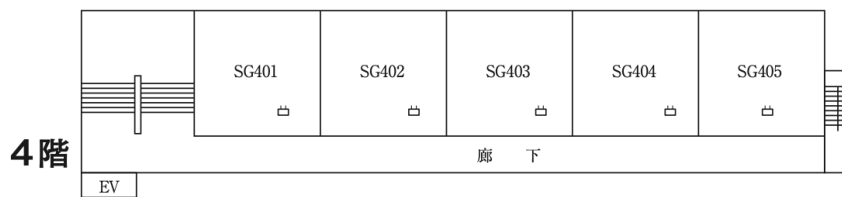


シンポジウム・総会会場 明学館 フロアマップ

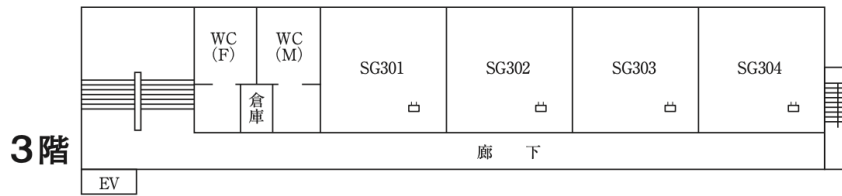


**3階**

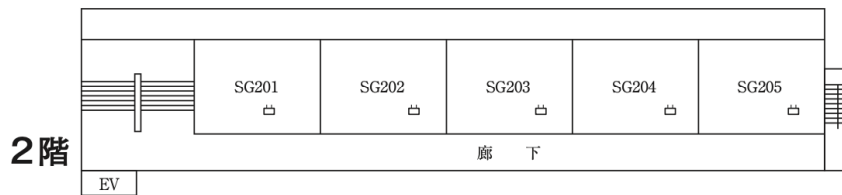
ラウンドテーブル会場 志学館 フロアマップ



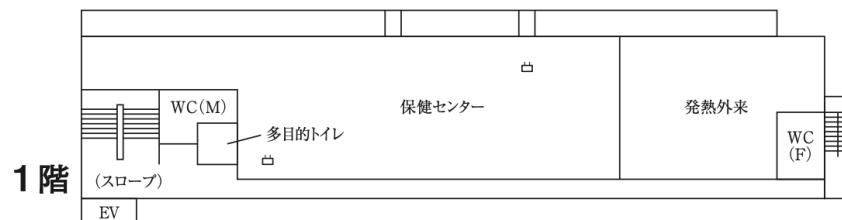
**4階**



**3階**



**2階**



**1階**

## シンポジウム／総会 Public Symposium/General Meeting

7月4日(土)

14:45-16:45

公開シンポジウム

明学館3階 MG301

17:00-18:00

総会

明学館3階 MG301

## 課題研究 Thematic Research Sessions I&II

7月5日(日)

14:50-17:10

課題研究 I

存心館2階 ZS207

14:50-17:10

課題研究 II

存心館3階 ZS301

## ラウンドテーブル Roundtable Sessions

7月3日(金) 18:00-20:00 会場：志学館2・3・4階	
RT1 【SG201】	アジア・アフリカの幼児教育について考える －理念と実践における乖離の要因と見える課題－
RT2 【SG202】	アジアにおける学校内外での STEAM 教育の交差 －キルギスタン、パキスタン、日本の事例比較－
RT3 【SG203】	カンボジア・タイ間の国境紛争と学校教育 －歴史的経緯、紛争の影響、今後の課題－
RT4 【SG204】	強制移住者の子どもを公教育に包摂する政策と実践 －開発途上国における事例の比較－
RT5 【SG205】	子どもの貧困とその対応動向 －中国、インド、ブラジル－
RT6 【SG301】	比較国際教育学研究における「脱植民地化」の射程 －「豊かな周縁国」日本における地域研究アプローチの再検討－
RT7 【SG302】	あなたにとって「アンラーニング」とは？ －人新世の教育をともに再想像する－
RT8 【SG303】	比較教育学における「教育への異文化間アプローチ」の射程 －研究・教育・実践の観点から－
RT9 【SG304】	諸外国における平和教育カルチャー・マップ －平和をめぐる学習経験－
RT10 【SG 401】	アジアの総合学習の最前線

## 自由研究発表 Presentation Sessions Schedule

7月4日(土) 自由研究発表 I Session I	7月5日(日) 自由研究発表 III Session III
(午前) 9:15-11:45 I-1 東南アジア地域 (1) 【ZS311】 I-2 高等教育 (1) 【ZS310】 I-3 国際教育・教育交流 (1) 【ZS309】 I-4 シティズンシップ 【ZS308】 I-5 教育と地域社会 【ZS307】 I-6 東アジア地域 (1) 【ZS306】 I-7 ヨーロッパ地域 (1) 【ZS305】 I-8 Southeast Asia (1) 【ZS304】 I-9 Development and Education 【ZS303】 I-10 Primary and Secondary Education 【ZS302】	(午前) 9:15-11:45 III-1 ジェンダーとマイノリティ 【ZS311】 III-2 初等・中等教育 (1) 【ZS310】 III-3 ヨーロッパ地域 (2) 【ZS309】 III-4 教育改革・教育計画 【ZS308】 III-5 北アメリカ地域 【ZS307】 III-6 国際教育・教育交流 (2) 【ZS306】 III-7 教師教育・教員問題 【ZS305】 III-8 多文化教育 【ZS304】 III-9 Southeast Asia (2) 【ZS303】 III-10 Higher Education 【ZS302】
7月4日(土) 自由研究発表 II Session II	7月5日(日) 自由研究発表 IV Session IV
(午後) 12:35-14:35 II-1 初等・中等教育 (2) 【ZS311】 II-2 生涯学習 【ZS310】 II-3 職業・技術教育 【ZS309】 II-4 紛争と教育 【ZS308】 II-5 Africa 【ZS304】 II-6 Education and Economics 【ZS303】 II-7 South Asia 【ZS302】	(午後) 12:35-14:35 IV-1 アフリカ地域 【ZS311】 IV-2 東南アジア地域 (2) 【ZS310】 IV-3 東アジア地域 (2) 【ZS309】 IV-4 高等教育 (2) 【ZS308】 IV-5 理論・思想・歴史 【ZS304】 IV-6 Multicultural Education 【ZS303】 IV-7 Local, Regional, and Community Education 【ZS302】

## 大会日程 Program Timetable

	7月3日(金)	7月4日(土)	7月5日(日)
08:00		8:30~受付 Registration 存心館2階 ZS205	8:30~受付 Registration 存心館2階 ZS205
09:00		9:15~11:45 自由研究発表I Research Presentation Session I 存心館3階	9:15~11:45 自由研究発表I Research Presentation Session I 存心館3階
10:00			
11:00			
12:00	12:00~受付 Registration	11:50~12:30(昼食) 60周年記念企画 Event to Commemorate the 60th Anniversary of JCEs 存心館3階 ZS301	11:50~12:30(昼食) ブックトークセッションI&II Book Talk Session I&II 存心館2階 ZS206、ZS207  若手研究者交流会 Exchange Meeting for Young Researchers 存心館2階 ZS204
13:00	12:30~14:15 常任理事会 Executive Board Meeting	12:35~14:35 自由研究発表II Research Presentation Session II 存心館3階	12:35~14:35 自由研究発表II Research Presentation Session II 存心館3階
14:00			
15:00	14:30~17:30 全国理事会 National Board Meeting	14:45~16:45 公開シンポジウム Open Symposium 明学館3階 MG301	14:50-17:10 課題研究I Selected Research Session I 存心館2階 ZS207
16:00			課題研究II Selected Research Session II 存心館3階 ZS301
17:00	17:30~受付 Registration	17:00-18:00 総会 General Meeting 明学館3階 MG301	
18:00	18:00~20:00 ラウンドテーブル Roundtable Session 志学館 2~4階		
19:00		18:10-19:45 情報交換会 Information Exchange Meeting 諒友館カフェ「ROSSO」	
20:00			

# 大会参加者へのご案内

## 1. 受付

7月3日（金）は17時30分より志学館2階にて受付を行います。7月4日（土）・5日（日）は、メイン会場である存心館の2階にて、8時30分より受付を行います。

## 2. 大会参加費、情報交換会参加費

会員種別	通常額 (6/1-30日に決済手続き)	早期割引額 (5月末日までに決済手続き)
通常会員	5,000円	4,000円
学生会員・特別会員	4,000円	3,000円
臨時会員（非会員通常）	6,000円	5,000円
臨時会員（非会員学生）	4,000円	3,000円

### 情報交換会参加費

会員属性	参加費
通常会員	5,000円
学生会員・特別会員	3,000円

ただし、公開シンポジウムのみに参加される場合は無料です。大会参加申込及び大会参加費の支払いは6月29日（日）正午まで受け付けます。ただし、土曜・日曜は参加申込システムのID及びパスワードに関するお問い合わせへの対応はできません。参加申込の手続きはできるだけ早めにお済ませください。

## 3. 大会本部

日本比較教育学会第62回大会準備委員会本部 存心館 ZS203  
電話 08069040874 E-mail : jces62rits@gmail.com

## 4. 会員控室

7月4日（土）・5日（日） 存心館 ZS205、ZS206

## 5. 託児サービス

第62回大会では、託児サービス業者に委託し、託児サービスを提供いたします。事前申し込みをいただいた方のみが対象となりますのでご了承ください。事前申し込み方法については、後日お知らせいたします。

## 6. 常任理事会・全国理事会

常任理事会は7月3日（金）12時30分より、末川記念館講義室にて実施いたします。全国理事会は同日14時30分より、末川記念館講義室にて行います。開催の場所、内容の詳細については、別途ご連絡いたします。

## 7. 大会期間中の昼食

7月4日・5日はキャンパス内の購買・食堂は営業していません。大学付近のコンビニエンスストア（1店）や飲食店（3～4店）をご利用できますが、混雑が予想されますのでお弁当などをご持参されることをお勧めいたします。存心館 ZS204～ZS207を昼食場所としてお使い下さい。

## 8. 情報交換会会場

7月4日(土) 18:10~19:45 に、諒友館カフェ「ROSSO」にて情報交換会を開催いたします。会場は諒友館地下1階となります。同日には諒友館1階において別団体による懇親会も開催されております。当日は係のご案内いたしますが、比較教育学会の情報交換会は地下1階会場での実施となりますので、お越しの際はご留意いただけますと幸いです。

## 9. Wi-Fi 環境

学内では eduroam をご利用いただけます。eduroam のユーザーID・パスワードは、事前に所属機関にて取得・確認の上、ご自身のアカウントで認証してご利用ください。所属機関で eduroam が利用できない場合は、大会参加者専用アカウントを準備委員会より発行いたしますので、受付にてお申し出ください。また、課題研究・シンポジウム等の資料につきましては、大会プログラム(第二版以降)に掲載するQRコードより、事前にご自身のPC・タブレット等へダウンロードの上、ご来場ください。なお、大会当日は、学会参加に必要なデバイスのみを eduroam に接続いただきますようお願いいたします。接続端末数が過度に増加した場合、通信が不安定になる可能性がございます。

## Conference Information and Procedures

### 1. Registration

Registration will be available from 17:30 on Friday, July 3 at the 2nd floor of Shigakukan Building. On Saturday, July 4 and Sunday, July 5, registration will open from 8:30 at the 2nd floor of Zonshinkan Building, the main conference venue.

### 2. Conference Registration Fee

The conference registration fees are as follows:

<b>Membership Category</b>	<b>Regular Fee (Payment completed between June 1–30)</b>	<b>Early-bird Fee (Payment completed by May 31)</b>
Regular Member	JPY 5,000	JPY 4,000
Student Member / Special Member	JPY 4,000	JPY 3,000
Temporary Member (Non-member, Regular)	JPY 6,000	JPY 5,000
Temporary Member (Non-member, Student)	JPY 4,000	JPY 3,000

### Networking Reception Fee

<b>Membership Category</b>	<b>Fee</b>
Regular Member	JPY 5,000
Student Member / Special Member	JPY 3,000

Participation in the Public Symposium only is free of charge. Conference registration and payment must be completed by noon on Sunday, June 29. Please note that inquiries regarding IDs and passwords for the online registration system cannot be handled on Saturdays or Sundays. Participants are therefore strongly encouraged to complete the registration process as early as possible.

### 3. Conference Headquarters

The 62nd Annual Conference Organizing Committee Office  
Zonshinkan Building, Room ZS203

Phone: +81-80-6904-0874

E-mail: [jces62rits@gmail.com](mailto:jces62rits@gmail.com)

### 4. Members' Lounge

Zonshinkan Building, Rooms ZS205 and ZS206

### 5. Childcare Service

Childcare services will be available during the conference through an external childcare provider. Please note that only participants who have completed advance registration for the service will be eligible to use it.

## **6. Executive Board Meeting and National Board Meeting**

The Executive Board Meeting will be held on Friday, July 3 from 12:30 at Suekawa Memorial Hall Lecture Room. The National Board Meeting will be held on the same day from 14:45 at Suekawa Memorial Hall Lecture Room. Further details regarding the venue and agenda will be provided separately.

## **7. Lunch During the Conference**

Campus cafeterias and stores will be closed on July 4 and 5. Although there is one convenience store and several restaurants near the university, congestion is expected. Participants are therefore encouraged to bring their own lunch. Rooms ZS204, ZS205, ZS206 and ZS207 in Zonshinkan Building may be used as lunch spaces.

## **8. Networking Reception**

A networking reception will be held on Saturday, July 4 from 18:10 to 19:45 at “ROSSO” Café in Ryoyukan Building. **Please note that the venue is located on Basement Level 1 of Ryoyukan Building.** Another organization will also hold a reception on the 1st floor of the same building on that day. Conference staff will guide participants; however, **please be aware that the reception for the Japan Comparative Education Society will take place in the Basement Level 1 venue.**

## **9. Wi-Fi Access**

Eduroam is available on campus. Participants are requested to obtain and confirm their eduroam user ID and password through their home institutions in advance and use their own credentials for authentication. For participants whose institutions do not support eduroam, temporary conference Wi-Fi accounts will be provided by the Organizing Committee upon request at the registration desk.

In addition, materials for thematic sessions and symposia should be downloaded in advance to participants' own laptops or tablets via the QR codes included in the conference program (second edition onward).

To maintain a stable network environment during the conference, participants are kindly requested to connect **only the devices necessary for conference participation to eduroam,** as excessive simultaneous connections may result in network instability.

# 自由研究発表注意事項

## 1. 発表時間

個人研究発表：発表 20 分、質疑 10 分（計 30 分）

共同研究発表：発表 20 分、質疑 10 分（30 分の場合）

発表 40 分、質疑 20 分（60 分の場合）

各部会での総括討論はありません。発表者も自由に移動していただいて結構です。なお、各発表の間には休憩時間を設けておりませんので、ご注意ください。司会者の方には、質疑時間の有効な活用をお願いいたします。

## 2. 発表資料

発表の際に配布する資料は、あらかじめご用意の上、各会場係にお渡しください。会場係が配布いたします。なお、会場でのコピーのご要望には応じられませんのでご了承ください。

## 3. 発表用機器

会場にはプロジェクタを設置しておりますが、発表の際は原則としてご自身のパソコンをご使用ください。なお、会場のプロジェクタは基本的に HDMI 接続のみに対応しております。端末接続時に変換コネクタ等が必要な場合は、各自でご準備いただきますようお願いいたします。

## 4. 発表取り消しの場合

発表取り消しの場合、速やかに大会準備委員会にご連絡ください。なお、発表取り消しの場合でも発表時間の繰上げは行いません。

日本比較教育学会第 62 回大会準備委員会 E-mail : [jces62rits@gmail.com](mailto:jces62rits@gmail.com)

# Guidelines for Presenters

## 1. Presentation time

Individual research presentation:

20 minutes for presentation, 10 minutes for Q&A (total 30 minutes)

Joint research presentation:

20 minutes for presentation, 10 minutes for Q&A (in case of 30 minutes)

40 minutes for presentation, 20 minutes for Q&A (in case of 60 minutes)

There will be no general discussion session at the end of each panel. Presenters and participants are free to move between rooms at any time. Please also note that no break time is scheduled between presentations. Session chairs are kindly asked to make effective use of the discussion and Q&A time.

## 2. Presentation materials

Please prepare the materials to be distributed at the time of your presentation in advance and hand them over to the respective room staff. The staff members will distribute them to the participants. Please note that we will not be able to make any photocopies at the venue.

## 3. Presentation equipment

**Computers and projectors are available at the venue. If you wish to use your computer, please inform the moderator before the start of your presentation session. Please note that the projector in the venue is compatible only with HDMI. If you require any connectors for device connection, please make sure to bring them with you.**

## 4. Cancellation of the presentation

In case you cancel your presentation, please contact the conference organizing committee as soon as possible. The timetable of the session will not be changed even if you cancel your presentation.

The 62nd JCES Annual Conference Organizing Committee

E-mail : [jces62rits@gmail.com](mailto:jces62rits@gmail.com)

# 大会プログラム

Program

**ラウンドテーブル1 Roundtable Session 1 7月3日(金) 18:00-20:00 SG201**

**アジア・アフリカの幼児教育について考える  
－理念と実践における乖離の要因と見える課題－**

企画者：門松 愛（大谷大学） 谷口 京子（広島大学大学院）  
発表者：小野 由美子（早稲田大学） 植田 啓嗣（福島大学） 八木 歩（神戸大学）

本企画では、アジア・アフリカの国々を対象として、幼児教育における理念や目標が、教育・保育現場において、どのように実現できているのか、または実現できていないのかを検討し、その要因について各国の共通点と相違点を見出すことを目指す。そのために、まずは、世界的な幼児教育の潮流として、「子ども中心」「主体的学び」「遊びを通した学び」「コンピテンシー」「就学準備」「探究型学習」などの鍵となる概念を整理する。次に、これらの鍵概念を念頭におきながら、諸外国における幼児教育の理念と実践、ならびに両者の間にみられる乖離について議論する。対象国は、バングラデシュ、ベトナム、タイ、ケニア、ルワンダ、マラウイである。具体的には、各国におけるカリキュラム目標や育てたい子ども像といった理念と、幼児教育施設において実際に行われている活動との関係性や、その乖離および乖離の要因について検討する。発表後、フロアとの議論のなかでアジア・アフリカの幼児教育・保育を取り巻く現状の共通点や相違点を議論し、幼児教育・保育の動向に関する理解を深めていきたい。

**ラウンドテーブル2 Roundtable Session 2 7月3日(金) 18:00-20:00 SG202**

**アジアにおける学校内外での STEAM 教育の交差  
－キルギスタン、パキスタン、日本の事例比較－**

企画者：高柳 妙子（東京女子大学）  
司会者：日下部 達哉（広島大学）  
発表者：服部 拓磨（広島大学大学院） 下山 多映（帝京大学） 藤崎 竜一（帝京大学）

本ラウンドテーブルは、STEAM 教育を「学校内外に広がる多様な学びの実践」として捉え直し、日本、キルギス、パキスタンの事例比較から、その可能性と課題を検討することを目的とする。従来の STEAM 教育に関する議論は学校教育の枠組みに終始しがちであるが、本企画では、日本の医療系大学の薬学教育におけるシミュレーション活用に加え、キルギスの伝統医療教育やパキスタンのユナニ医学およびITフリーランサーのスキル形成プロセスに着目する。近代科学、伝統知、デジタルスキルという異なる知識体系を比較することで、科学教育が地域文化やインフォーマル教育と交差しながら形成される側面を浮き彫りにする。以上の議論を通じ、STEAM 教育を多様な学習環境が交差する場として再定義し、今後の教育デザインへの示唆を提示する。

**ラウンドテーブル3 Roundtable Session 3 7月3日(金) 18:00-20:00 SG203**

**カンボジア・タイ間の国境紛争と学校教育  
－歴史的経緯、紛争の影響、今後の課題－**

企画者・発表者：千田 沙也加（中京大学）

企画者・司会者・発表者：牧 貴愛（広島大学）

発表者：飯田 直弘（北海道大学） 飛田 麻也香（大阪教育大学） 北村 友人（東京大学）

2025年5月以降、カンボジアとタイの国境地域において軍事衝突が生じ、同年12月には停戦合意に至ったものの、緊張状態は継続しており、依然として不安定な状況が続いている。本ラウンドテーブルではまず、カンボジア・タイ国境紛争の歴史的経緯について、当事国であるカンボジアとタイに視点を置く研究や報告に加え、日本を含む国際的な議論を踏まえて整理する。その上で、紛争が地域社会にもたらしている影響、とりわけ学校教育への影響に焦点をあて、学校閉鎖の状況、被害の実態、子どもの移動や学習継続などの課題について報告する。さらに、学習・教育継続、ボーダー地域の教育、越境する子どもたちの教育経験といった観点から、北アイルランド、イスラエル／パレスチナなど、他国・地域における紛争事例や国際的な知見を参照しつつ、多角的に議論を行う。フロアとの意見交換も交えながら、国境紛争下における教育のあり方と今後の課題について検討することを目的とする。

**ラウンドテーブル4 Roundtable Session 4 7月3日(金) 18:00-20:00 SG204**

**強制移住者の子どもを公教育に包摂する政策と実践  
－開発途上国における事例の比較－**

企画者・司会者：坂上 勝基（神戸大学）

発表者：小松 太郎（上智大学） 金子 聖子（東洋大学）

内海 悠二（名古屋大学） 坂口 真康（大阪大学）

サンフォ ジャンバティスト モハammadウ バシル（兵庫県立大学）

本ラウンドテーブルは、科学研究費基盤研究(B) (25K00767) 「開発途上国における強制移住者の子どもを公教育に包摂する政策の国際比較」の研究参加者による、1回目の発表である。従来、難民や国内避難民をはじめとする強制的に移動させられた子どもの教育は、援助機関による緊急人道支援の一環として行われるのが通常だった。しかし、避難先での暮らしの長期化が避けられない状況の現実的打開策として、公教育システムへの包摂を通じて教育を提供するアプローチが主流となっている。その一方、事実上、強制移住者の大部分が暮らしている開発途上国を事例に、各国の多様な文脈に応じどのような関連する政策がとられ、学校やコミュニティレベルでいかなる実践が行われているかに関する検討は十分に行われていない。本ラウンドテーブルでは、各事例研究の暫定的な成果の報告を行う。各事例の比較を通して示唆される政策課題や、支援のあり方に対するインプリケーション等を含め、フロアとの意見交換を通じ議論する機会とさせていただきたい。

**ラウンドテーブル 5 Roundtable Session 5 7月3日(金) 18:00-20:00 SG205**

**子どもの貧困とその対応動向  
ー中国、インド、ブラジルー**

企画者：南部 広孝（京都大学大学院）  
企画者・司会者：中島 悠介（京都大学大学院）  
発表者：田村 徳子（大阪公立大学） 張 潔麗（京都大学大学院）  
渡辺 雅幸（びわこ学院大学） 石川 裕之（京都女子大学）

子どもの貧困は、日本のみならず世界各国で社会問題になっており、経済協力開発機構（OECD）も2018年に関連の報告書を出している。一方で、子どもの貧困問題の捉え方やその対応は、各国における社会的文脈や文化的背景などによって異なり、一様ではない。本ラウンドテーブルでは、中国、インド、ブラジルの3か国を対象とし、各国における①「貧困」や「子どもの貧困」の定義、②子どもの貧困の推移や現状、③政策動向を含む子どもの貧困問題に関する対応策などを確認するとともに、その共通点や相違点を検討し、今後国際比較を進めるうえで有意義な視点や対象について、指定討論も交えながら参加者とともに考えてみたい。

**ラウンドテーブル 6 Roundtable Session 6 7月3日(金) 18:00-20:00 SG301**

**比較国際教育学研究における「脱植民地化」の射程  
ー「豊かな周縁国」日本における地域研究アプローチの再検討ー**

企画者・発表者：TASTANBEKOVA Kuanysh（筑波大学）  
司会者：橋本 憲幸（山梨県立大学）  
発表者：工藤 瞳（慶應義塾大学） 関口 洋平（大阪公立大学） 興津 妙子（大妻女子大学）

比較国際教育学研究の分野は現在、重要な認識論的岐路に立っており、西洋中心主義に根ざした歴史的な基盤から、より多元的な未来へと移行しつつある。日本に拠点を置く研究者にとって、この移行は独特の課題と機会をもたらすものである。「豊かな周縁国」(Takayama, 2016)として活動する日本の研究者は、二重のジレンマに直面している。すなわち、アングロ・サクソンの方法論の優位性に批判的に挑戦すると同時に、教育学研究における日本自体の歴史的な帝国主義や、西洋に同調する姿勢（西洋中心主義）を問い直さなければならない状況にある。

「脱植民地化（decolonization）」の枠組みは、学術知がいかにかに生成し正当化され流通しているかを批判的に再検討することを求める。日本比較教育学会は長年、「地域研究アプローチ」として知られる独自の知的伝統を育んできた。歴史的にアジア、アフリカ、ラテンアメリカ等の「開発途上」地域を専門とする会員によって実践されてきたこの現象学的かつフィールドワーク重視のアプローチは、西洋の理論的構築を無批判に採用することを防ぎ、研究者を西洋中心主義の呪縛から解放するものとして位置付けられてきた。

この伝統の中で育った研究者が、自身のフィールドに向ける「まなざし」はどのようなものか。それは「脱植民地化」の枠組みにおいていかに位置付けられるのか。自身の研究対象や方法と真摯に向き合うことが、今まさに重要となっている。本ラウンドテーブルでは、カザフスタン、ペルー、ベトナムをフィールドとする3名と、国際教育開発を専門とする2名の会員が、「脱植民地化」に関する問題意識を共有し、このフレームワークの有用性、限界、そして陥りやすい「落とし穴」について多角的に議論することを目的とする。

比較国際教育学研究の「脱植民地化」、地域研究、グローバル教育政策の再構想に関心を持つすべての会員の参加を期待している。日本の教育、国際教育開発、あるいは諸地域研究（アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、中央アジア等）といった専門領域を問わず、活発な意見交換を歓迎する。

**ラウンドテーブル7 Roundtable Session 7 7月3日(金) 18:00-20:00 SG302**

**あなたにとって「アンラーニング」とは？  
—人新世の教育をともに再想像する—**

企画者・司会者：丸山 英樹（上智大学）

発表者：布川 あゆみ（東京外国語大学） 米原 あき（東洋大学）

生成AI・気候変動・超高齢化が重なる今、比較教育学は何を「学びほぐす」必要があるのか。本ラウンドテーブルでは、人新世における近代教育の「大きな物語」の動揺を受け、三つの視角から議論を開く。(i)「存在の学習」「ネガティブ・ケイパビリティ」「コンヴィヴィアルテクノロジー」による認識論的問い直し、(ii) フィールドワークにおけるナラティブ手法が照らす「小さな物語」の生成、(iii) 複雑系を扱う評価論が示す創発的学習の可視化。参加者自らが「手放したこと」を表現する参加型ワークショップを通して、ともにアンラーニングの比較教育学研究の可能性を探りたい。

**ラウンドテーブル8 Roundtable Session 8 7月3日(金) 18:00-20:00 SG303**

**比較教育学における「教育への異文化間アプローチ」の射程  
—研究・教育・実践の観点から—**

企画者・発表者：渋谷 恵（明治学院大学）

発表者：AKKARI Abdeljalil（University of Geneva） 見世 千賀子（東京学芸大学）

中山 あおい（大阪教育大学） 島埜内 恵（白鷗大学） 菊地 かおり（筑波大学）

本企画は、2026年3月刊行の『教育への異文化間アプローチ—理論から実践へ』（明石書店）の原著者と、同書の翻訳に携わった「多様化する社会におけるシティズンシップ教育の比較研究」プロジェクトメンバー（東京学芸大学先端教育人材育成推進機構・国際教育グループにおける共同研究）によるラウンドテーブルです。

原著（abdeljalil Akkari & Myriam Radhouane, *Intercultural Approaches to Education: From Theory to Practice*, Springer, 2022）は、文化的多様性を検討するための理論的基礎を整理するとともに、アメリカ、カナダ、ブラジル、スイス、フランス各国の歴史的展開や政策、学校現場の状況を具体的に分析しており、「異文化間アプローチ」の視点から教育を捉え直す意義を緻密に論じています。

本企画では、まず原著者より本書の意図とその可能性について話題提供を行います。その上で、比較教育学研究における視座、大学教育や教員研修、生涯学習等の実践場面における活用の方向性について、それぞれの専門領域に基づき、フロアとの対話も交えながら多角的に議論したいと思います。

使用言語は日本語および英語を予定しています。

**ラウンドテーブル9 Roundtable Session 9 7月3日(金) 18:00-20:00 SG304**

**諸外国における平和教育カルチャー・マップ  
ー平和をめぐる学習経験ー**

企画者・司会者：中矢 礼美（広島大学）  
発表者：姜 姫銀（広島大学） 福留 東土（東京大学）  
劉 国彬（福山大学） LANG Sophat（広島大学大学院）

本企画では、諸外国において高校段階までに生徒が平和をめぐる学習をどのように経験し、どのような平和観や平和構築に向けた貢献意識を有しているのかを比較検討し、平和教育カルチャー・マップを描くことを試みる。具体的には、各国の大学生とのインタビューから、1) 学生（生徒）は高校段階までに平和や暴力について、何を学んできたと考えているか（覚えているか）、2) それらにどのように影響を受けてきたと考えているか、3) 現在、平和や平和構築についてどのような考えを持っているか、4) 平和に向けて現在どのようなことに取り組んでいるか、あるいは将来どのように取り組んでいきたいと考えているかを描き、その特徴を比較検討する。対象国は、日本、韓国、中国、アメリカ、ボリビア、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、スリランカ、ニュージーランド、デンマーク、スウェーデン、ルワンダである。それらの特徴については、自分たちの平和観に基づいて善悪・優劣として評価するのではなく平和教育カルチャーとして捉え、市民による平和に向けた対話や協働を促す新たな平和教育の構築にむけて議論する。

**ラウンドテーブル10 Roundtable Session 10 7月3日(金) 18:00-20:00 SG401**

**アジアの総合学習の最前線**

企画者・司会者：小川 佳万（広島大学）  
発表者：尹 鐘赫（淑明女子大学） 松本 麻人（名古屋大学大学院） 小野 寺香（奈良女子大学）  
石井 佳奈子（立正大学） 朴 聖希（広島大学） 張 子瑩（広島大学大学院）

近年、アジア各国・地域では総合学習が活発に取り組まれている。その背景には、グローバル化・情報化時代に求められる新しい学力観の提唱と、それに基づく学びの変革がある。各国・地域では 2000 年ごろから総合学習が本格的に導入されてきたが、それから数十年が経過した現在、総合学習はどのように取り組まれているのであろうか。本ラウンドテーブルは日本を含めた近隣諸国における総合学習の最前線について情報共有する場としたい。

**自由研究発表 I-1 Research Presentation Session I-1 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS311**  
**東南アジア地域(1)**

司会 鴨川 明子(早稲田大学)

- 9:15 - 9:45 フィリピンの都市貧困地域における若者の包括的教育(CSE)をめぐる経験と認識—トンドで生活する若年男性の語りから—  
藤井 利江(太成学院大学)
- 9:45 - 10:15 カンボジアの年齢超過生徒の学習動機と潜在的な中退リスクに関する質的研究  
山口 理紗(鳴門教育大学大学院)
- 10:15 - 10:45 カンボジアにおけるポル・ポト政権期を生きたくマエ・イスラーム教育者像—教師のライフヒストリーから—  
千田 沙也加(中京大学)
- 10:45 - 11:15 タイ北部へき地・小規模校の学習・指導環境と教員不足の実態—予備調査報告—  
○牧 貴愛(広島大学)  
下田 旭美(福山平成大学)
- 11:15 - 11:45 シンガポールの教育省立幼稚園における教育実践とコンピテンシーの育成—WoW(Weeks of Wonder) Projectの目的と実践事例に着目して—  
池田 充裕(山梨県立大学)

**自由研究発表 I-2 Research Presentation Session I-2 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS310**  
**高等教育(1)**

司会 米澤 彰純(東北大学)

- 9:15 - 9:45 高等教育機関における学生ステークホルダーの自己位置づけに関する探索的分析—留学生と国内学生の学習・キャリア期待と影響力認識—  
黄 文哲(京都情報大学院大学)
- 9:45 - 10:15 日米における理工系高等教育への文化的背景の影響—講義コーパスの解析に Legitimation Code Theory を適応—  
国吉 ニルソン(早稲田大学)
- 10:15 - 10:45 危機下の国際高等教育における知識外交の再定義—知識及び価値観の保護的側面に着目して—  
○芦田 明美(名古屋大学)  
○内海 悠二(名古屋大学)
- 10:45 - 11:45 第2次トランプ政権下におけるアメリカの大学—連邦政策、大学の対応、反ユダヤ主義、反 DEI—  
○福留 東土(東京大学)                      ○高見 英樹(東京大学大学院)  
○鈴木 拓人(筑波技術大学)                ○長沢 誠(埼玉大学)  
○吉田 翔太郎(山梨大学)                   ○木原 友紀(東京大学大学院)  
中村 祥子(東京大学)                      萩原 絵理香(東京大学)  
小林 尚矢(東京大学大学院)               川村 真理(文部科学省)  
小村 桐子(東京大学)

**自由研究発表 I-3 Research Presentation Session I-3 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS309**  
**国際教育・教育交流(1)**

司会 堀江 未来(立命館大学)

- 9:15 - 9:45 タミル・ナードゥ州政府における言語教育政策の特質  
永井 美月(京都大学大学院)
- 9:45 - 10:15 フィンランドの市民カレッジで開講されている日本関連講座の設置状況とそ  
の特徴  
大谷 杏(福知山公立大学)
- 10:15 - 10:45 中国国際高校における日本大学入試接続の課題ー上海・蘇州の事例からー  
李 敏(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)
- 10:45 - 11:15 国際バカロレア教員養成におけるトルコと日本の学部生の批判的思考態度の  
比較ー量的および質的分析による検討ー  
木村 光宏(岡山理科大学)
- 11:15 - 11:45 「一つ屋根型グローバルキャンパス」からみる大学のブランディング戦略と  
課題ーシンガポールと中国の事例を中心にー  
シム・チュンキャット(昭和女子大学)

**自由研究発表 I-4 Research Presentation Session I-4 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS308**  
**シティズンシップ**

司会 森下 稔(東京海洋大学)

- 9:15 - 9:45 タイにおける無国籍生徒の進路形成  
ーミャンマー国境の職業教育カレッジを事例にー  
船橋 唯介(東京大学大学院)
- 9:45 - 10:15 日本の部活動における「主体性」のパラドックス  
ー高校時代に体育会系クラブに所属していた大学生の語りよりー  
○吉野 華恵(東京大学)  
原田 亜紀子(都留文科大学)  
○須藤 玲(東京大学)
- 10:15 - 10:45 保守党政権下のイギリスにおける人種と教育をめぐる論点  
ーセウエル報告と政府の応答を手がかりとしてー  
菊地 かおり(筑波大学)
- 10:45 - 11:15 「通識教育」は民主化運動を育てたのか  
ー「代替」された香港 DSE 必修科目の試験問題分析(2012~2022)ー  
大和 洋子(星槎大学)
- 11:15 - 11:45 子どもの参加を促す要因の多層性  
ーアイスランドの Hjalli モデル園の実践からー  
原田 亜紀子(都留文科大学)

**自由研究発表 I-5 Research Presentation Session I-5 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS307**  
**教育と地域社会**

司会 馬場 智子 (大阪経済大学)

- 9:15 - 9:45 ニュージーランドにおける難民再定住支援の構造  
ー初期支援から地域での定住における教育機会の位置づけー  
柿原 豪 (新潟医療福祉大学)
- 9:45 - 10:15 コロナのパンデミックは低所得者・移民集住地域の学校にどのように経験されたかー米国カリフォルニア州における公立初等教育機関の事例からー  
西 徳宏 (宝塚大学)
- 10:15 - 10:45 タイのユネスコ学習都市を事例とした大学・地域連携による生涯学習  
ータイ地方部にとっての「豊かさ」とはー  
吉嶺 加奈子 (九州大学大学院)
- 10:45 - 11:45 東南アジア・東アジアにおける OOSCY の「多様な学び」に関する比較研究  
○乾 美紀 (兵庫県立大学)  
○荻巢 崇世 (東京大学)  
○中矢 礼美 (広島大学)  
○松本 麻人 (名古屋大学大学院)

**自由研究発表 I-6 Research Presentation Session I-6 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS306**  
**東アジア地域 (1)**

司会 石川 裕之 (京都女子大学)

- 9:15 - 9:45 中国の義務教育における均衡政策の執行から見る政府のガバナンス・ロジックー「中国版ラストベルト」の A 市を事例にしてー  
劉 海寧 (一橋大学大学院)
- 9:45 - 10:15 中華民族共同体意識の推進下における民族教師の位置づけ  
ー民族教育政策の分析を通してー  
邸 碩 (大阪公立大学)
- 10:15 - 10:45 When Difference Is Invisible but Policy Is Not: Affirmative Action, Institutional classification, and Academic Adjustment in China  
安 梓澄 (東京大学大学院)
- 10:45 - 11:15 中国出身学生が留学を選択しない理由  
ーフォーカスグループから見た日本という留学先ー  
新井 凜子 (静岡大学)
- 11:15 - 11:45 中国中学校における憲法教育の変容ー2000年代以降の教科書改革を中心にー  
武 小燕 (名古屋市立大学)

**自由研究発表 I-7 Research Presentation Session I-7 7月4日(土) 9:15-11:45 ZS305**

**ヨーロッパ地域(1)**

司会 近藤 孝弘(早稲田大学)

- 9:15 - 9:45 ドイツの大学国際化における海外拠点の役割  
－アクター間の関係性に着目して－  
小椋 裕子(東京大学大学院)
- 9:45 - 10:15 東独・ポーランド歴史教科書対話に関する研究－対外文化政策の視点から－  
小田 瑞穂(早稲田大学大学院)
- 10:15 - 10:45 イギリスの公教育における歴史学受容の展開  
－教科における役割の変遷を中心に(1891-2021年)－  
菅尾 英代(京都光華大学短期大学部)
- 10:45 - 11:15 イギリスにおける探究学習(EPQ)を担う教員の専門性開発に関する研究  
－大学主導による支援モデルに着目して－  
花井 渉(九州大学)
- 11:15 - 11:45 欧州の大学における大学院生講師制度－EU、フランス、ドイツ－  
川村 真理(文部科学省)

**自由研究発表 I-8 Research Presentation Session I-8 7月4日(土) 9:15-11:15 ZS304**

**English Session (1) Southeast Asia (1)**

Moderator: Megumi SHIBUYA (Meiji Gakuin University)

- 9:15 - 9:45 Finding the only open door:  
Myanmar Students, Educational Displacement, and the Limits of Internationalization  
in Post-Coup Thailand  
JungHyun RYU (The University of Tokyo)
- 9:45 - 10:15 Constructing Equity in Online Learning Policies:  
A Critical Discourse Analysis of Vietnam's Higher Education  
Nguyen Hoang LONG (Hiroshima University)
- 10:15 - 10:45 An Analysis of Secondary School Teachers' Digital Teaching Competence in  
Cambodia  
Runjing GUO (Kobe University)
- 10:45 - 11:15 Citizenship Education Teachers' National Identities-in-Practice through Curriculum  
Unpacking in Junior High School Social Studies in Mindanao, Philippines  
Melanie Joy D. GUNIO (International Christian University,  
University of the Philippines Diliman)
- 11:15 - 11:45 Support Mechanisms for Novice Teacher Socialization in Cambodia:  
Insights from Policy Document Analysis  
Rathanakvoly PHUONG (Hiroshima University)

**自由研究発表 I-9 Research Presentation Session I-9 7月4日(土) 9:15-11:15 ZS303**  
**English Session (2) Development and Education**

**Moderator: Yuto KITAMURA (The University of Tokyo)**

- 9:15 - 9:45 Climate Hazard Vulnerability and Primary School Attendance:  
Evidence from Cambodia  
Thavrith SARA (Kobe University)
- 9:45 - 10:15 From Resource Dilution to Adaptive Allocation:  
Family Size, Parental Strategies, and Children's Foundational Learning in Palestine  
Yousuf DAAS (Kobe University)
- 10:15 - 10:45 Filipino Junior High Schools Perspectives on the Effectiveness of Values Education in  
Promoting Peace and Justice  
Nancy Dungog OMOLON (Osaka Jyogakuin University)
- 10:45 - 11:15 Internship Participation and Labour Market Outcomes of Vocational High School  
Graduates in Indonesia  
Noa YOKOGAWA (Kobe University)
- 11:15 - 11:45 The Influence of Education on Female Labour Force Participation in Lao PDR:  
Focusing on Ethnicity  
Nakyung KIM (Kobe University)

**自由研究発表 I-10 Research Presentation Session I-10 7月4日(土) 9:15-11:15 ZS302**  
**English Session (3) Primary and Secondary Education**

**Moderator: Hiromitsu MUTA (International Development Center of Japan)**

- 9:15 - 9:45 Analyzing the Effect of Digital Learning Resources and School Support on Student  
Learning Achievement in Cambodian Secondary Schools  
Leavsovath IN (Kobe University)
- 9:45 - 10:15 Role of Socio-Emotional Skills in Costa Rican Primary School Students' Academic  
Achievement  
Alba Soledad PÉREZ SALINAS (Kobe University)
- 10:15 - 10:45 Middle School Students' Perception of Classroom Space in China:  
Based on Social Background of Examination Ordeal  
Fan WU (Hiroshima University)
- 10:45 - 11:15 Recontextualization of Evidence-based Educational Practices among Novice Primary  
School Teachers in Cambodia  
Davut NHEM (Hiroshima University)
- 11:15 - 11:45 Experiences of Stigma and Exclusion among Learners with Special Needs in  
Secondary Schools in Malawi:  
A Phenomenological Study  
Providence Atipatsa CHIGWENEMBE (Hiroshima University)

**60周年記念企画 JCES 60<sup>th</sup> Anniversary Commemorative Event 7月4日(土) 11:50-12:30 ZS301**

学会創設60周年記念イベント・トークイベントについては、プログラム第二版に掲載予定です。



**自由研究発表 II-1 Research Presentation Session II-1 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS311**  
**初等・中等教育(2)**

司会 草薨 佳奈子(名古屋大学)

- 12:35 - 13:05 タカフル(相補的責任)を醸成する教育的営為とは  
ースーダン移民教師のナラティブに着目してー  
黒川 智恵美(早稲田大学)
- 13:05 - 13:35 国際協力を受けたカンボジア初等社会科授業の特質  
ー日本の問題解決学習との比較ー  
守谷 富士彦(四天王寺大学)
- 13:35 - 14:05 ギフテッド傾向のある子どもへの教育の充実に向けたコーディネーターに関する研究  
ーオーストラリア・クイーンズランド州の私立学校の取り組みからー  
○伊藤 駿(京都教育大学)  
鈴木 英太(京都教育大学)  
菊井 雅志(京都府教育委員会)
- 14:05 - 14:35 インドネシアの小学校宗教教育が育む資質・コンピテンスに関する予備的研究  
鈴木 康郎(高知県立大学)

**自由研究発表 II-2 Research Presentation Session II-2 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS310**  
**生涯教育**

司会 澤野 由紀子(聖心女子大学)

- 12:35 - 13:05 パキスタン IT フリーランサーの経験と教育的側面  
服部 拓磨(広島大学大学院)
- 13:05 - 13:35 リスキリング時代における既修得学習の承認 (Recognition of Prior Learning)  
の取組ー米国・韓国の事例ー  
○野田 文香(大学改革支援・学位授与機構)  
○鄭 漢模(北海道大学)
- 13:35 - 14:05 アートを活かした「学びほぐし」による認知症に関する理解促進事業  
ーオーストリアと日本の美術館における実践からの考察ー  
鈴木 尚子(徳島大学)
- 14:05 - 14:35 近代教育の学びほぐし  
ー人新世における認識論的転換とユネスコ『教育の未来』の批判的検討ー  
丸山 英樹(上智大学)

**自由研究発表 II-3 Research Presentation Session II-3 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS309**  
**職業・技術教育**

司会 中島 悠介 (京都大学)

- 12:35 - 13:05 オランダの中等職業教育学校におけるエントリー課程の福祉的役割  
野々山 翔太 (名古屋大学大学院)
- 13:05 - 13:35 中国における学士課程段階の高等職業教育への学生の適応状況  
－卒業生に対する予備調査から－  
張 潔麗 (京都大学)
- 13:35 - 14:05 タイにおける高専教育の土着性と外来性  
－プレミアムコースの制度と運用－  
下田 旭美 (福山平成大学)
- 14:05 - 14:35 中央アジア諸国における中東職業教育協力の模索  
－地域的統合、制度間連携、共通ビジョン－  
TASTANBEKOVA Kuanysh (筑波大学)

**自由研究発表 II-4 Research Presentation Session II-4 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS308**  
**紛争と教育**

司会 三宅 隆史 (立教大学)

- 12:35 - 13:05 イタリアにおける学校危機管理制度の構造解明  
－米国との比較を通じて－  
大西 健介 (東京保育専門学校)
- 13:05 - 13:35 ミャンマー連邦共和国におけるマトリキュレーション試験合格率の変容に関する研究  
牟田 博光 (国際開発センター)
- 13:35 - 14:05 ブータン難民キャンプにおける教育  
－第三国移住後の社会適応との関連性－  
佐藤 美奈子 (京都大学・国立民族学博物館)
- 14:05 - 14:35 イスラエルにおける「共生」をめぐる教育の展開  
－政策・言説の分析を中心に－  
飛田 麻也香 (大阪教育大学)

**自由研究発表 II-5 Research Presentation Session II-5 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS304**  
**English Session (4) Africa**

**Moderator: Jean-Baptiste M.B. SANFO (University of Hyogo)**

- 12:35 - 13:05 Analysis of the Relationship between Teachers' Code-Switching and Students' Academic Achievements in Burkina Faso's Primary Schools  
Armel ZOUGMORE (Kobe University)
- 13:05 - 13:35 Investigating the Heterogeneous Effect of Universal Secondary Education Policy in Uganda  
Seiya MAEDA (Kobe University)
- 13:35 - 14:05 Early-Childhood Stunting and Primary School Dropout in Uganda: A Cohort-Based Analysis  
Lantao SHI (Kobe University)
- 14:05 - 14:35 Analysis of Family Engagement and Child Development in Nigeria  
Salihu Umar BAROS (Kobe University)

**自由研究発表 II-6 Research Presentation Session II-6 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS303**  
**English Session (5) Education and Economics**

**Moderator: Aki YONEHARA (Toyo University)**

- 12:35 - 13:05 The Role of Cognitive and Non-cognitive Skills in Shaping Labor Market Outcomes: A Cross-Country Analysis of STEP Survey Data  
Kohei UNO (Kobe University)
- 13:05 - 13:35 A Spatial Analysis of Flooding Exposure and Education Disruption: Evidence from Cambodia  
Ryuto MINAMI (The University of Tokyo)
- 13:35 - 14:05 Comparative Analysis of Education and Brain Drain in Polynesia and Micronesia: Evidence from Tonga and Kiribati  
Keiichi OGAWA (Kobe University)
- 14:05 - 14:35 Analysis of Determination Factors to Access to TVET in Uganda  
Shiki FUJIWARA (Kobe University)

**自由研究発表 II-7 Research Presentation Session II-7 7月4日(土) 12:35-14:35 ZS302**  
**English Session (6) South Asia**

**Moderator: Ai KADOMATSU (Otani University)**

- 12:35 - 13:05 Home Learning Environment and Early Childhood Development: A Longitudinal Study in Bangladesh  
Kexin WANG (Kobe University)
- 13:05 - 13:35 Constructing Futures: Higher Educational and Career Aspirations Among Muslim Youth in Nepal  
Manjuma Akhtar MOUSUMI (Hiroshima University)
- 13:35 - 14:05 Teacher Invitation for Parental Involvement in Early Childhood Education: A Case Study from Bangladesh  
○Katsuki SAKAUE (Kobe University)  
Kexin WANG (Kobe University)  
Keiichi OGAWA (Kobe University)

## アジア・アフリカの〈狡知・規知・統知〉から 近代学校教育を問い直す

「日本で暮らす多くの人々は、もう長い間、その日その日を紡いでいるといった感覚とは無縁の生き方をしている。あるいは、明日どうなるかわからないといったゾワゾワを封じるために、社会全体でいまの延長線上に未来を計画的・合理的に配置し、未来のために現在を生きることがまるで義務であるかのように生きている。安心・安全が予測可能性と深く結びつき、よりわかりやすい未来を築こうと制度やシステムを高度化し、将来のために身を粉にして働く。これに反する生き方は基本的に、社会不適合で「ダメな」生き方だと考えられている。」

—小川さやか

『「その日暮らし」の人類学—もう一つの資本主義経済』

本シンポジウムは、近代学校教育が前提としてきた知の正統性を問い直し、人間形成をめぐる知の複数性とその交錯を再定位することを目的とする。近代学校教育は、国家と社会を支える制度として発展する過程において、「正統的知識」「望ましい主体形成」「規範化されたライフコース」を提示し、人々の生に大きな影響を与えてきた。すなわち学校教育は、人々を一定の価値体系へと方向づけると同時に、そこから逸脱する者を周縁化する作用をも担ってきたと言える。今日の日本社会において顕在化している不登校、引きこもり、進学・就職への不安、さらには「将来」のために「現在」に従属させる時間感覚に象徴される息苦しさは、こうした近代教育の延長線上に位置づけることができるであろう。

本企画では、このような近代学校教育を相対化するための視座として、「狡知」「規知」「統知」という三つの概念に着目する。「狡知」とは、人々が日常的実践のなかで状況に応じて編み出す、生を切り拓くための実践的知を指す。「規知」とは、宗教的・倫理的秩序に支えられ、人間を「善く生きること」へと方向づける知である。そして「統知」とは、国家や制度による統治の作用が内面化され、人々の認識や行為を方向づける知の形態を意味する。本シンポジウムでは、これらを固定的なカテゴリーとして捉えるのではなく、社会のなかで相互に交錯し、ときに緊張し、ときに補完し合いながら、人間形成に深く関与する動的な知の様態として位置づける。

本シンポジウムでは、まず、小川さやか（立命館大学）による基調講演を起点として議論を展開する。小川は、文化人類学的アプローチを通じて、タンザニア社会における人々の関係性のなかで生成される実践的知を検討し、「狡知」を軸としながら、それが規範や制度といかなる関係を結んでいるのかを論じる。これを受けて、久志本裕子（上智大学）が応答報告を行う。久志本は、マレーシアを含むイスラーム社会を対象とする地域研究の立場から、「規知」を中心に、宗教的人間形成が、時に制度化され、また時に制度をすり抜けながら伝達されていく様相について検討する。文字化・体系化可能な部分は近代学校制度へと取り込まれうる一方で、信仰や倫理、心のあり方といった人格の関係性や身体的実践を通じてのみ継承される宗教的知は、制度化や評価の枠組みには容易に回収されない側面を有している。久志本は、そのような宗教的知が、制度を支えながら同時に制度を逸脱する両義的性格を有している点に着目し、「規知」と「狡知」の交錯として捉えることを試みる。つづいて、小川佳万（広島大学）が応答報告を行う。小川は、中国の教育政策を事例として、多様な地域・民族を包摂する国家統治の作用に着目し、それが人々の認識や行為の内部にいかにか浸透しているのかを、「統知」の観点から分析するとともに、人々の実践的知との相互作用を検討する。

以上の三つの議論は、それぞれ異なる地域研究および方法論に立脚しながらも、学校教育の枠組みのみに還元されえない学びと人間形成のあり方を提示するものである。本シンポジウムでは、「狡知」「規知」「統知」の交差と連関を通して、近代学校教育が依拠してきた知の正統性そのものを問い直したい。さらに、学校制度を中心として構築されてきた従来の比較教育学の枠組みを再検討し、教育をより広範な社会的・文化的実践のなかへ再定位するための理論的可能性を探究する。

報告者

#### 小川さやか（立命館大学）

人類学的アプローチから、タンザニア社会における零細商人マチンガに着目し、人びとの関係性の中で生成される生き抜く狡知と学びの実践に着目する。さらに、こうした実践的知が社会的規範や制度的枠組みとどのように交錯しながら形成されるのかを検討する。

『チョンキンマンションのボスは知っている—アングラ経済の人類学』（2019年、春秋社、第8回河合隼雄学芸賞、第51回大宅壮一ノンフィクション賞受賞）

『「その日暮らし」の人類学—もう一つの資本主義経済』（2016年、光文社新書）

『都市を生きぬくための狡知—タンザニアの零細商人マチンガの民族誌』（2011年、世界思想社、第33回サントリー学芸賞受賞）

#### 久志本裕子（上智大学）

イスラーム社会を中心とする地域研究の立場から、宗教的規範や倫理秩序が教育の内容と形式をいかに規定しているのかを検討する。さらに、こうした規範的知が日常実践の中でどのように解釈され、具体的な学びとして体現されるのかを明らかにする。

あわせて、宗教的規範と社会的・制度的枠組みとの関係に着目し、複数の知が交差する教育のあり方を考察する。

『変容するイスラームの学びの文化—マレーシア・ムスリム社会と近代学校教育』（2014年、ナカニシヤ出版）

#### 小川 佳万（広島大学）

中国における少数民族教育を事例として、教育制度論のアプローチから、多様な地域や民族を統合する国家において、教育制度がいかに統治の作用を担い、人々の認識や行為の枠組みとして内在化されるのかを、「統知」の観点から分析する。その際、「上有政策・下有対策」に見られるような人々の実践的知（狡知）や人間形成（規知）との関係にも目を向け、制度的統治と現場の応答が交錯するなかで形成される複数の知の相互作用を考察する。

『社会主義中国における少数民族教育：「民族平等」理念の展開』（2001年、東信堂）

司会／ディスカッサント

羽谷沙織（立命館大学）

『身体に宿る芸能知—カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容の民族誌』（2026年、東信堂）

**自由研究発表 III-1 Research Presentation Session III-1 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS311**

**ジェンダーとマイノリティ**

司会 櫻井 里穂 (広島大学)

- 9:15 - 9:45 マラウイにおける女性の世帯内意思決定と児童の初等教育への私的支出  
ーリロングウェ、ブランタイア、ゾンバを事例にー  
石井 雄大 (神戸大学大学院)
- 9:45 - 10:15 スウェーデンにおけるジェンダー平等の再生産メカニズム  
ー学校教育の価値観と社会制度の相互作用に着目してー  
古阪 肇 (文部科学省)
- 10:15 - 10:45 日本・ロシア・ドイツの小学校国語教科書に描かれたジェンダー観  
○塘 利枝子 (同志社女子大学)  
○MISOCHKO Grigory (京都外国語大学)
- 10:45 - 11:45 植民地期マラヤとインドネシアにおける女子の「学校化」  
ー女子が学校に行くことはどのようにして「あたりまえ」になったのか?ー  
○久志本 裕子 (上智大学)  
服部 美奈 (名古屋大学)  
鴨川 明子 (早稲田大学)

**自由研究発表 III-2 Research Presentation Session III-2 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS310**

**初等・中等教育**

司会 坂野 慎二 (玉川大学)

- 9:15 - 9:45 カナダの教育課程における先住民の民族知に関する教育  
ーブリティッシュ・コロンビア州の理科における先住民の伝統的な生態学的  
知識 (Traditional Ecological Knowledge: TEK) に着目してー  
下村 智子 (三重大学)
- 9:45 - 10:15 イタリアの全国要領改訂における能力観の検討  
ー歴史科の変化に着目してー  
徳永 俊太 (京都教育大学)
- 10:15 - 10:45 「間主観的評価」という視座  
ーデンマークの口頭試験を事例としてー  
市川 桂 (東京海洋大学)
- 10:45 - 11:15 ドイツにおける終日学校政策の展開と課題  
ーブレーメンとフランクフルトの学校間比較を通してー  
布川 あゆみ (東京外国語大学)
- 11:15 - 11:45 スウェーデンの高校探究学習における指導と評価  
ー6プログラムでの評価方法の比較検討ー  
本所 恵 (金沢大学)

**自由研究発表 III-3 Research Presentation Session III-3 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS309**  
**ヨーロッパ地域(2)**

司会 園山 大祐 (大阪大学)

- 9:15 - 9:45 「想像力」を育成するためのドラマ (DRAMA)  
—CHRIS COOPER の理念とドラマ教師研究の実践を中心に—  
廖 穎彤 (日本大学大学院)
- 9:45 - 10:15 ドイツの大学制度改革と高等教育のユニバーサル化  
—ドイツの大学が変貌している—  
佐藤 勝彦 (ブレーメン経済工科大学)
- 10:15 - 10:45 ギムナジウム上級段階のゼミ活動に関する一考察  
—ドイツ・バイエルン州を事例として—  
ト部 匡司 (広島市立大学)
- 10:45 - 11:15 病気療養者の教育的ニーズの聴取りにおける当事者の「聴く側」での参画の  
成立と意義—イングランド医療政策の展開を踏まえた INSCHOOL プロジェク  
トの事例分析—  
豊田 英嗣 (立教大学)
- 11:15 - 11:45 フィンランドの学習支援制度におけるインクルーシブ概念の検討  
渡邊 あや (津田塾大学)

**自由研究発表 III-4 Research Presentation Session III-4 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS308**  
**教育改革・教育計画**

司会 川口 純 (慶応義塾大学)

- 9:15 - 9:45 「高校単位制」導入1年、何が変わったのか  
—政策と現実の乖離—  
姜 姫銀 (広島大学)
- 9:45 - 10:15 スウェーデンにおける就学前クラス制度の形成と消滅  
矢崎 桂一郎 (国立教育政策研究所)
- 10:15 - 10:45 日本の高校教育改革における政策試行 (policy pilot) の制度的特質と展開  
—「〇〇ハイスクール」事業の分析を通して—  
関 楽平 (九州大学)
- 10:45 - 11:45 教育内容保障を水準確保と包摂性とを両立させよう取り組むのか  
—国際バカロレア・キャリア関連プログラムにおける近年の動向に着目して—  
○柳田 雅明 (青山学院大学)      ○飯田 直弘 (北海道大学)  
花井 渉 (九州大学)                  中西 啓喜 (桃山学院大学)  
中島 悠介 (京都大学)                木村 光宏 (岡山理科大学)

**自由研究発表 III-5 Research Presentation Session III-5 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS307**  
**北アメリカ地域**

司会 児玉 奈々 (滋賀大学)

- 9:15 - 9:45 カナダ・オンタリオ州の幼児教育における人間と more-than-human の関係性  
ー先住民文化と自然に着目した幼児教育者の語りー  
中村 絵里 (千葉大学)
- 9:45 - 10:15 カナダ・オンタリオ州における教育課程行政に関する考察  
ーナショナル・カリキュラムの内容の理解を巡ってー  
森本 洋介 (弘前大学)
- 10:15 - 10:45 チャータースクール反不正改革の制度デザイン  
ーカリフォルニア州3法案に見る“flex-based charter”構想ー  
佐々木 司 (山口大学)
- 10:45 - 11:15 Charter Management Organizations (CMOs)によるチャータースクールへの支援  
ーカリフォルニア州ロサンゼルスの実践に着目してー  
寶來 敬章 (常葉大学)
- 11:15 - 11:45 米国高等教育における Workforce Pell Grants の展開  
ーOBBBA 下の成人学生支援に注目してー  
五島 敦子 (南山大学)

**自由研究発表 III-6 Research Presentation Session III-6 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS306**  
**国際教育・教育交流 (2)**

司会 秋庭 裕子 (一橋大学)

- 9:15 - 9:45 国際共修型授業におけるミスコミュニケーションの実態と課題  
ー日本・ペルーの学生を対象とした予備的調査ー  
ピニロス マツダ デレク ケンジ
- 9:45 - 10:15 中国の留学生教育政策の変容  
ー規模優先から量質両立へー  
王 澤霖 (東北大学)
- 10:15 - 10:45 現代モロッコにおけるイスラーム学を学ぶ留学生の受入体制  
ーカラウィーイーン大学の事例を中心にー  
内田 直義 (就実大学)
- 10:45 - 11:15 海外留学を通じたエリート形成のメカニズムに関する予備的分析  
ータイの事例を踏まえてー  
○カンピラパーブ スネート (名古屋大学)  
鈴木 康郎 (高知県立大学)
- 11:15 - 11:45 日本の高等教育に於ける留学生入学資格審査 (FCE) の課題  
ー2024年全国アンケート調査結果からの考察ー  
堀田 泰司 (大学改革支援・学位授与機構)

**自由研究発表 III-7 Research Presentation Session III-7 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS305**  
**教師教育・教員問題**

司会 下田 旭美 (福山平成大学)

- 9:15 - 9:45 教師の専門職基準と教師の専門性の開発  
－カナダ・アルバータ州を事例として－  
黒田 友紀 (日本大学)
- 9:45 - 10:15 オーストラリアにおける教師の科学カリキュラムへの認識  
－Science as a Human Endeavour に着目して－  
○越智 拓也 (成蹊大学)  
松原 憲治 (国立教育政策研究所)
- 10:15 - 10:45 メキシコ合衆国における教師教育  
－政権変容と教育改革に着目して－  
鈴木 賀映子 (帝京大学)
- 10:45 - 11:15 インドネシアにおける校内研修の教師の学びの場としての特質  
－授業協議会の比較分析を通して－  
草薙 佳奈子 (名古屋大学)
- 11:15 - 11:45 台湾の教員研修制度の特質  
－初任教員支援に着目して－  
日暮 トモ子 (日本大学)

**自由研究発表 III-8 Research Presentation Session III-8 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS304**  
**多文化教育**

司会 萩巣 崇世 (東京大学)

- 9:15 - 9:45 移民送出国による教育関与を通じた移民のアイデンティティへの働きかけ  
－日本における祖国見学プログラムに着目して－  
村田 裕佳 (京都大学大学院)
- 9:45 - 10:15 ドイツの初等中等教育における「ことばに配慮した教科教育」の展開  
立花 有希 (宇都宮大学)
- 10:15 - 10:45 アメリカ・タイの基礎教育における多言語教育政策の比較  
○馬場 智子 (大阪経済大学)  
○田中 真奈美 (東京未来大学)
- 10:45 - 11:15 長期化する難民状況における成人学習  
－タイ国境のミャンマー難民の事例－  
三宅 隆史 (立教大学)
- 11:15 - 11:45 ポルトガルにおける移民生徒の学力格差と包摂に向けた制度的展開  
－言語的接近性と学力格差の乖離に着目して－  
二井 紀美子 (愛知教育大学)

**自由研究発表 III-9 Research Presentation Session III-9 7月5日(日) 9:15-11:15 ZS303**  
**English Session (5) Southeast Asia 2**

**Moderator: Sayaka SENDA (Chukyo University)**

- 9:15 - 9:45 Analyzing the Influence of Intercultural Exposure on Academic Achievement in Primary Education in Cambodia  
Jiling YAO (Kobe University)
- 9:45 - 10:15 The Compliance-Agility Paradox: A CIPP-Based Analysis of Structural Insulation in Lao Finance and Banking Curricula  
Phetsila KHAMTHONGVEUN (Hiroshima University)
- 10:15 - 10:45 Double-Shift Schooling and Educational Outcomes: The Moderating Role of School-Based Management in Cambodia  
Takumi KOIKE (Kobe University)
- 10:45 - 11:15 Comparative Insights into Teacher Educators' ICT Competence in Cambodia and Lao PDR through a DigCompEdu-Informed Framework  
Xiamdong MENG (Hiroshima University)
- 11:15 - 11:45 Analysis of Determinant Factors Affecting Equitable Access to Early Childhood Education in Lao PDR  
Khambang XAYSAXHONE (Kobe University)

**自由研究発表 III-10 Research Presentation Session III-10 7月5日(日) 9:15-11:45 ZS302**  
**English Session (6) Higher Education**

**Moderator: Hideto Fukudome (The University of Tokyo)**

- 9:15 - 9:45 Internationalisation in Japanese higher education through the lens of women's leadership: Comparative education approaches  
Akiyoshi YONEZAWA (Tohoku University)
- 9:45 - 10:15 A Comparative Study of Factors Influencing International Competitiveness among Interdisciplinary Graduate Students in Taiwan and Japan  
Yu Ching LIAO (National Taitung University)  
Jo-Ying CHU (National Tsing Hua University)
- 10:15 - 10:45 Outcomes and Challenges of Cross-border Collaborative Degree Programs between the Global North and South: Faculty Perspectives from Japan-Indonesia Double Degree Programs  
Midori OZAWA (PADECO Co., Ltd.)
- 10:45 - 11:15 Knowledge Production in Northeast Asia amid Shifting Geopolitical Landscapes: 25 Years in Review  
Lizhou WANG (Waseda University)
- 11:15 - 11:45 New Challenges in Work-Life Balance among Female University Faculty: A Comparative Study of Japan and China Focusing on Childbearing Decision-Making Processes  
Qiuqing PAN (Yamanashi Gakuin University)

## Book Talk Session I 東信堂

### 1. セッション趣旨

東信堂は1985年に創業し、高等教育と比較教育学の出版から始め、比較教育学会の学会誌を1988年7月の14号から刊行してまいりました。当時のテーマは『教育改革と比較教育学』です。学会誌は年1回刊行でしたが、次第に学会員が増え掲載する論文も増えたことで、32号(2006年)から年2回、2月と7月を目途に刊行しております。

この間、『日本比較教育学会40年の歩み』(2004年6月)等の学会の軌跡をまとめた記念誌を10年毎に刊行していることや『比較教育学事典』(2012年6月)、比較教育学の体系的テキストとして、石附実編『比較・国際教育学』(1996年4月)、馬越徹『比較教育学-越境のレッスン』(2007年6月)、山田肖子・森下稔編『比較教育学の地平を拓く』(2012年2月)等、グローバル化時代の転換期に比較教育学会に依拠した書籍を刊行してきました。今後も各国の幼児、初等・中等教育から大学・大学院の高等教育まで幅広く刊行するとともに、世界各国の教育の実態や比較教育学理論の図書を刊行していきます。

今回のブックトークは5回目ですが、以下の小社刊行の6冊の紹介と本づくりのプロセスで感じていたことなどを語って皆様と共有し、新たな道を見出したいと思います。この機会は著者と読者、そして出版社の三者交流を深める場としても設けられています。テーマの誕生から執筆・出版までご興味ある方は奮ってご参加ください。

### 2. 発表者

- ・白銀研五著『ベトナムにおける「包摂」—学校を中心とする教育圏の変容』(2026年2月刊・A5判・224頁・本体4800円) 白銀 研五(びわこ学院大学)
- ・羽谷沙織著『身体に宿る芸能知:カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容の民族誌』(2026年3月刊・A5判・456頁・本体9000円) 羽谷 沙織(立命館大学)
- ・平井清子著『戦後台湾の英語教育—教科書にみる「文学性」と「政治・社会性」』(2025年5月刊・A5判・416頁・本体7200円) 平井 清子(北里大学)
- ・塚田亜弥子著『韓国大学の外国人留学生受入戦略と実践—量と質両立への転換』(2025年9月刊・A5判・376頁・本体5200円) 塚田 亜弥子(香川大学)
- ・水野谷優・小川啓一・小原ベルファリゆり編著『社会性と情動の学習:SELと非認知スキルで未来を拓く教育』(2026年3月刊・A5判・296頁・本体2900円) 小川 啓一(神戸大学)
- ・福留東土『アメリカの大学に何が起きているのか—第二次トランプ政権と大学の葛藤』(仮題)(2026年6月刊行予定) 福留 東土(東京大学)

※本ブックトークにて紹介した書籍は、大会当日に書店ブースにて書籍展示・販売を致します。ぜひお気軽にご来店ください。

以上

## Book Talk SessionⅡ 明石書店

### 1. セッション趣旨

明石書店は、1978年の創業以来、人権の尊重を基本理念とし、社会正義と人権の確立、マイノリティの立場に立ちつつ、思想・歴史・社会・政治・経済・文化、在日・新来外国人、障害者、福祉、戦後補償、教育、ジェンダーなど、常に考えていかなければならないテーマについて、より広い視野をもった書籍を出版しています。

このたびのBook Talk Sessionでは、明石書店より刊行いたしました学会会員さまの近刊図書につきまして、著者ご自身による図書の紹介や本作りの経験談などをお話いただき、研究成果の普及としての出版について、会員みなさまとの情報共有の機会となりますことを願っております。お昼時間の短い時間ではございますが、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 2. タイムテーブル

**Introduction** : 明石書店 編集部 安田 伸

**Session 1 Talk** : 内田 直義 (就実大学心理学部)

エル・アマンダ・デ・ユリ A.S. (名古屋大学大学院)

アズミ・ムクリサフ (名古屋大学大学院)

紹介図書『日本で暮らすムスリムの子どもたちの教育

——イスラームを学ぶ・生きる・継承する』

服部美奈 監修、内田直義・千田沙也加・中島悠介・松本麻人・見原礼子 編 2025年8月刊、ISBN978-4-7503-5970-0

[多様な声に耳を傾けて試行錯誤を重ねる公立学校、そして新しい教育の選択肢として模索を続けるイスラーム学校。ムスリムの子どもたちとともにあって日々成長する「学校」のダイナミズムを、綿密かつ広範にわたる調査をもとに描き出す。]

**Session 2 Talk** : 佐藤 仁 (福岡大学人文学部)

紹介図書『多様性を志向する教師教育——各国も文脈に根ざした多彩な姿をひもとく』

佐藤仁・伊藤亜希子 編著 2026年2月刊、ISBN978-4-7503-6060-7

[世界各国において児童生徒の多様性が高まっているなか、そうした状況を前提とした学校で働く教師の養成や研修が求められている。世界8か国の比較分析をとおして、多様性のさまざまな次元から、その傾向を探るとともに、日本における多様性を志向する教師教育の進展にむけたヒントを探る。]

### ◎明石書店 出展ブース

学会会期中に、大会会場にて展示・販売ブースを設置します。是非ともこの機会にお立ちより下さい。

## 若手研究者交流会 Networking for Early-Career Researchers

### 1. 概要

若手ネットワーク委員会 (Y-Net) は、今年も、日本比較教育学会大会において「若手研究者交流会」を開催いたします。昨年大会では 60 名以上にご参集いただき、対面での交流を楽しみました。

学部生・大学院生の皆さん、若手研究者の皆さんが、全国にネットワークを広げるとともに、研究の悩みやだいご味を共有したり、情報交換したりする場になればと考えております。

研究に悩んでいる方、フィールド経験を共有したい方、初めての学会で緊張している学部生・大学院生、比較教育学フレンドを作りたい方など、どなたも大歓迎です。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております！！

【日時】2026年7月5日(日) 11:50-12:30

【場所】ZS204

### 2. 参加申込・参加方法

当日の飛び込み参加も大歓迎いたしますが、参加人数の見込みを把握しておきたく、参加を希望される方は、下記 Google Form リンクより事前登録をいただけますと幸いです。

⇒申し込みフォーム <https://forms.gle/ZiVdUy8vtUnmZvgk7>

### 3. お問い合わせ

主催：若手ネットワーク委員会 (Y-Net) E-mail: [jces.ynet@gmail.com](mailto:jces.ynet@gmail.com)

〈企画・運営：若手ネットワーク委員会 (Y-Net) 〉

学生会員委員

今泉 尚子 (早稲田大学大学院) 松田 華織 (神戸大学大学院) 吉岡 香奈 (東京大学大学院)

委員

小川 未空 (大阪経済大学)	小原 優貴 (東京大学)	鴨川 明子 (早稲田大学)
神内 陽子 (名古屋大学)	須藤 玲 (東京大学)	田島 夕貴 (東京大学)
橋本 拓夢 (大阪大学)	宮村 侑樹 (大阪大学)	守谷 富士彦 (四天王寺大学)
八木 歩 (神戸大学)	吉田 翔太郎 (山梨大学)	

**自由研究発表 IV-1 Research Presentation Session IV-1 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS311**  
**アフリカ地域**

司会 小川 未空 (大阪経済大学)

- 12:35 - 13:05 公教育への住民「参加」を問い直す  
ーケニア農村部における在来の自助組織 (Chama) と学校活動における互酬  
性に着目してー  
山口 菜々果 (大阪大学大学院)
- 13:05 - 13:35 教育政策のゆらぎを生きる青少年のゆくえ  
ータンザニア・キゴマ州 M 区の事例ー  
高村 満衣 (京都大学)
- 13:35 - 14:05 出生登録の欠如が教育達成に及ぼす影響ーモザンビークの事例ー  
八木 歩 (神戸大学)
- 14:05 - 14:35 児童労働フリーゾーンによる子どもの教育への影響  
ーガーナのカカオ生産地域における制度分析ー  
西向 堅香子 (帝京大学)

**自由研究発表 IV-2 Research Presentation Session IV-2 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS310**  
**東南アジア地域 (2)**

司会 久志 本裕子 (上智大学)

- 12:35 - 13:05 カンボジアにおける大学選択と家族内学歴差の関係性  
ー家族関係と意思決定のプロセスに着目してー  
土久岡 真美 (神戸大学)
- 13:05 - 13:35 シンガポール高等教育の学生経済支援政策  
王 帥 (東京大学)
- 13:35 - 14:05 日本とベトナムにおける知識外交  
ー関係者のインタビューに基づいた視点からー  
楊 武勳 (国立暨南国際大学教育学院)
- 14:05 - 14:35 カンボジアとラオスの高等教育改革  
ーパートナーシップの多様化と自立への道筋ー  
○梅宮 直樹 (上智大学)  
米澤 彰純 (東北大学)

**自由研究発表 IV-3 Research Presentation Session IV-3 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS309**  
**東アジア地域(2)**

司会 劉 靖 (東北大学)

- 12:35 - 13:05 韓国の4年制大学における編入学制度に関する考察  
西山 喜満主 (京都大学大学院)
- 13:05 - 13:35 韓国における高校学点制の導入と課題  
出羽 孝行 (龍谷大学)
- 13:35 - 14:05 台湾の少子化と大学教育  
可部 繁三郎 (福井工業大学)
- 14:05 - 14:35 台湾における「好学生(よい学生)」とは何か?  
- 「模範生」制度をめぐる一考察 -  
山崎 直也 (帝京大学)

**自由研究発表 IV-4 Research Presentation Session IV-4 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS308**  
**高等教育(2)**

司会 芦田 明美 (名古屋大学)

- 12:35 - 13:05 米国の大学アドミッションにおける面接の位置づけ  
- ハイステークスな実施の縮小とローステークスな実施の諸形態 -  
江幡 知佳 (大学入試センター)
- 13:05 - 13:35 ハーバードにおける学士課程カリキュラムの改革動向  
- コア・カリキュラムから一般教育プログラム (Gen Ed) へ -  
小林 尚矢 (東京大学大学院)
- 13:35 - 14:05 大学院学位取得者のキャリア形成と定着要因に関する比較研究  
- ケニア・ガーナ・エジプトを事例として -  
安達 まり子 (国際協力機構)
- 14:05 - 14:35 ドイツにおける高等教育拡大政策の検証  
坂野 慎二 (玉川大学)

**自由研究発表 IV-5 Research Presentation Session IV-5 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS304**  
**理論・思想・歴史**

司会 工藤 瞳 (慶応義塾大学)

- 12:35 - 13:05 2023年ユネスコ教育勧告改定過程におけるコンセンサス形成の分析  
- 国際教育規範における「共通性」構築のメカニズム -  
阿部 裕子 (東京福祉大学)
- 13:05 - 13:35 「教育透過性」の理論的枠組の構築に関する予備的考察  
森下 稔 (東京海洋大学)
- 13:35 - 14:05 1900年前後のドイツとオーストリアにおける外国教育認識  
- 政治教育の比較史研究 -  
近藤 孝弘 (早稲田大学)
- 14:05 - 14:35 現代ブラジルにおけるパウロ・フレイレの教育思想  
- ポピュリズムの台頭と「解放教育」の再評価 -  
山口 アンナ真美 (東京都立大学)

**自由研究発表 IV-6 Research Presentation Session IV-7 7月5日(日) 12:35-14:35 ZS303**  
**English Session (7) Multicultural Education**

**Moderator: Saori HAGAI (Ritsumeikan University)**

- 12:35 - 13:05 Exploring Perceptions of Teachers with Experience in International Mobility and Exchange:  
From Perspectives of Diversity and Social Inclusion in a Global Era  
Masayasu SAKAGUCHI (The University of Osaka)
- 13:05 - 13:35 Global Trends in Intercultural Competence Education:  
Influences on Japan's Secondary Education  
Kristijonas Aleksandras BRAZAS (Sophia University)
- 13:35 - 14:05 Religious Inherency:  
How People Connect to their Religion beyond an Identity in the Indonesian Context  
Pratiwi Tri UTAMI (Hiroshima University)

**自由研究発表 IV-7 Research Presentation Session IV-7 7月5日(日) 12:35-14:05 ZS302**  
**English Session (8) Local, Regional, and Community Education**

**Moderator: Keiichi OGAWA (Kobe University)**

- 12:35 - 13:05 Teaching and Learning Environments in Remote Schools in Northern Laos:  
Preliminary Findings from School-Based Qualitative Research  
Mayouly KEOPHATSADA (Hiroshima University)
- 13:05 - 13:35 A Comparative Study of the Interaction between Education Systems and Teaching Practices:  
Cases of Honduras and Kenya  
Hiromi MIYAKOSHI (Tokoha University)
- 13:35 - 14:05 Connecting with the More-Than-Human World:  
Place-Based Learning towards Planetary Peace in Japan  
○Huijia TEH (Waseda University)  
○Maria Iluminada Esquivel MANZON (Sophia University)

## コンピテンシー・ベースの高等教育改革の日仏比較 —中等教育・職業教育との接続を手がかりに—

司会者：細尾 萌子（立命館大学）

報告者：

ファビエンヌ・マイヤール（Fabienne Maillard）（パリ第8大学）

「L'approche par compétences dans l'enseignement supérieur français : genèse, objectifs et limites（フランスの高等教育におけるコンピテンシー・アプローチ：歴史、目的、限界）」

松下 佳代（京都芸術大学）

「日本の高等教育におけるコンピテンシー・ベース教育の位置づけ—学問分野による多様性と政策による共通性—」

指定討論者：堀江 未来（立命館大学）

通訳：田川 千尋（大阪大学） 大場 淳（広島大学）

近年、OECD や EU をはじめとする国際機関による教育政策の方向性を背景として、「知識を活用して実践する力」を重視するコンピテンシー・ベースの教育改革が、多くの国で展開されている。高等教育においても、少なくとも政策言説や制度的枠組みのレベルにおいて、知識の伝達を中心とした教育モデルから、学修成果を明示化し、社会的・職業的実践につながる能力の育成を重視する教育モデルへと、一定の転換が観察される。しかしながら、このような転換は、知識とコンピテンシーの関係をどのように捉えるのか、大学教育にいかなる役割を期待するのか、さらには教育と職業との関係をいかに再構成するのかといった、根本的な問いを含んでいる。

本課題研究では、こうした国際的動向を背景に、日本とフランスの高等教育におけるコンピテンシー・アプローチの受容および実践のあり方を比較検討する。両国を対象とする理由は、①コンピテンシー概念が異なる政策的課題への対応として導入されてきたこと、②その定義や運用をめぐる制度的枠組みおよびガバナンスの構造が大きく異なること、③中等教育および職業教育との接続の制度的位置づけや象徴的意味づけに顕著な差異がみられることにある。

以上を踏まえ、本研究では、①高等教育政策におけるコンピテンシー概念の受容とその位置づけ、②大学現場におけるカリキュラム実践とそこで生じている課題、③中等教育および職業教育との接続のあり方、という三点を中心に検討する。そのうえで、コンピテンシー・ベースの改革が、学生の学びを実質的に支える制度的装置となりうるのか、それとも知識をコンピテンシーに従属させ、大学教育の意義そのものを変質させる方向に作用するのかという問いを、日仏比較を通じて批判的に検討する。これにより、高等教育における「知の実践化」の意味、その多様な用法、そして限界を明らかにすることを目的とする。

< 報告者・指定討論者紹介 >

ファビエンヌ・マイヤール：パリ第 8 大学名誉教授。専門は、教育社会学、高等教育改革、職業教育政策。フランスにおける教育と労働市場の関係、コンピテンシー・ベース改革、資格制度改革に関する研究を牽引し、高等教育政策の批判的分析において国際的に高い評価を受けている。現在の研究課題は、フランス高等教育におけるコンピテンシー・アプローチの制度的展開とその社会的・教育的影響。

松下 佳代：京都芸術大学教授、京都大学名誉教授。専門は、大学教育学、教育方法学。初等・中等教育とも関連づけながら、大学教育におけるコンピテンシー、学習評価等の批判的検討を行い、日本の大学教育改革において理論・実践の両面で大きな影響を与えている。近著に、『測りすぎの時代の学習評価論』（2025）、『〈新しい能力〉は教育に何をもたらしたのかー資質・能力ベースの改革を飼いならすー』（編、2026）。

堀江 未来：立命館大学教授。専門は、国際教育学、異文化間教育学、高等教育論。2017 年から 7 年間立命館学園附属校の校長を兼任、2023 年度よりグローバル教養学部教授。異文化体験を通じた学びと成長を促進する教育プログラムの設計・実施を中心に、初等・中等・高等教育にわたる教育改革に幅広く取り組んでいる。現在の研究課題は、異文化感受性の発達を促すグローバル教育実践を通じた DEI コンピテンシーの育成。

本課題研究は、「フランスにおけるコンピテンシーの内容と育成・評価法：学校間接続の視点から」（基盤研究（B）24K00380、代表者：細尾萌子）の成果の一部である。

## つながる時代の比較教育学を問い直す(3) —「共通性」を模索するプロセスとしての比較教育学—

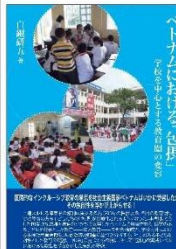
司会者：秋庭 裕子(一橋大学) 萩巢 崇世(東京大学)  
報告者：佐藤 仁(福岡大学) 橋本 憲幸(山梨県立大学) 林 寛平(信州大学)

今期の研究委員会は、3年間の研究テーマとして「つながる時代の比較教育学を問い直す」を設定し、学問としての比較教育学を多角的に議論している。これまで、「COVID19は比較教育学に何を問いかけたのか」(第60回大会)および「教育実践とのつながりを考える」(第61回大会)をサブテーマに課題研究を行ってきた。そこでは、日本の比較教育学と、対象とするフィールドや研究を還元する社会(教育実践)とのつながりを議論してきた。3年目の本課題研究では、視点をより「内」に向けて、日本の比較教育学研究の中でのつながりを検討する。

日本の比較教育学の特徴は、多様化、多元化、複層化といった言葉で語られることがある。多様なディシプリンや方法論が混在していること、地域研究を軸に各国・地域の差異に迫っていること等については、多くの比較教育学研究者たちが肌で感じていることであり、先行研究(例えば、山田肖子・森下稔『比較教育学の地平を拓く』東信堂、2013年)においても実証的に確認されてきた。それが日本の比較教育学研究の土壌を豊かにしてきたことは間違いない。他方で、多様性の強調や差異の先鋭化によって、研究間のつながりが希薄にはなっていないかという疑問も残る。ある国・地域の研究という枠や、開発系や国際交流系といった括り方が、時に枠や括りを超えた研究のつながりを停滞させてはいないだろうか。そして、それぞれの研究が対峙する参照軸や「共通性」が見えない中で、比較教育学研究者たちは何をベースにつなげるのだろうか。

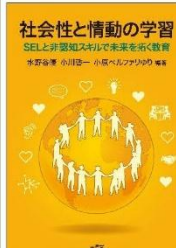
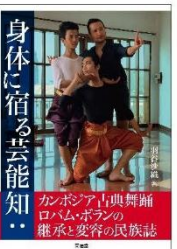
さて、学問論の問い直しの作業は、問い直す対象が存在して初めてスタートするのが一般的である。例えば、教育方法学における「授業研究」や教育経営学における「学校の自律性」等。それらと比した場合、日本の比較教育学には、多くの研究の参照軸となるような理論やコンセプトが明確には存在しない。ただし、それ自体は問題ではない。なぜなら、日本の比較教育学はそれらが定位されていないからこそ、様々な方法論や視角を示し差異を強調することで、問い直すという作業を皆で展開することができる。誰しもが比較教育学を問い直す「プロセス」がそこには内包されているのかもしれない。

ただしそのこと自体は、日本の比較教育学が参照軸や「共通性」の模索を捨象してよいことを意味していない。多様性や差異性に支えられたプロセスにおいて、「共通性」(理論、政策インプリケーション、傾向、命題等)を追究する営みが加わることで、私たちの研究がつながり、さらに比較教育学研究の土壌が豊かになるのではないだろうか。「共通性」に基づく、「共通性」を目指す、「共通性」を見つけるということ自体に改めて向き合い、はたしてそれがどれほどの意味を有するのか、そこに潜む可能性と限界はどこにあるのかを議論することは、つながる時代の比較教育学を問い直す作業として、大きなチャレンジである。3年間の研究委員会の活動の総括として、本課題研究では皆でこのテーマを議論していきたい。



**ベトナムにおける「包摂」**  
 学校を中心とする教育圏の変容  
 白銀研五著 A5・224頁・4800円  
 ベトナムで展開される障がいのある子どもと障がいのない子どもを一緒に教育する和入教育の理念・制度と学校内外の多様な教育実践を、綿密な現地調査で分析する。障害のある子どもも包摂した教育の独自の実践モデルの複数性を明らかにした気鋭の研究！

**身体に宿る芸能知：**  
 カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容の民族誌  
 羽谷沙織著 A5・456頁・9900円  
 古典舞踊ロバム・ボランは、君主儀礼としての宮廷舞踊であった。その後伝統舞踊の継承するアクターの違いから舞踊のあり方が変容した。そのドラマチックな展開をつぶさに描いた渾身のエスノグラフィー！



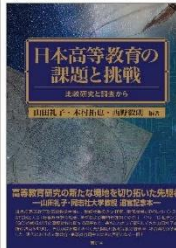
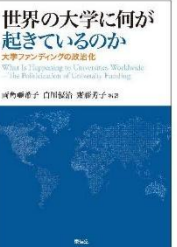
**社会性と情動の学習**  
 SELと非認知スキルで未来を拓く教育  
 水野谷優・小川啓一・小原ベルファリゆり編著 A5・296頁・3190円  
 「生きる力」等、多義的な概念をハーバード、OECD、UNESCOの最新各知見から厳密に整理。個別のスキルが個人により良い人生、社会の再構築へと繋がるか。最新の知見と政策を架橋し、次世代の教育を構想するための必読必須。

**韓国大学の外国人留学生受入戦略と実践**  
 量と質両立への転換  
 塚田亜弥子著 A5・376頁・5720円  
 18歳人口減少と大学財政難の喫緊課題は日本と同じ韓国。国策として留学生を取り込む中、留学生の量と質を担保する秘訣は何か。全国の国公私大の教育経験を内外から取り込み分析する。



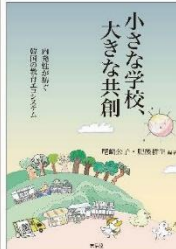
**戦後台湾の英語教育**  
 教科書にみる「文学性」と「政治・社会性」  
 平井清子著 A5・416頁・7920円  
 戦後台湾の英語教育の変遷を膨大な英語教科書を分析し、社会背景、教育政策や教育課程と関連づけて描いた画期的な学際的研究。教科書から文学性と政治・社会性の二大特長を抽出し、豊かな人間性と思考力を育てながら英語運用力を育成する実体を明らかにする。

**世界の大学に何が起きているのか**  
 大学ファンディングの政治化  
 両角亜希子他編著 A5・272頁・3520円  
 経済成果を求めた研究開発の競争激化、AI導入、自国優先の排外主義の展開で国家と大学の関係に政治色が帯びてきた。日・英・独・韓・加・米の研究費ファンディングや大学を巡る政治変化の政策動向や国家と大学間の葛藤と協調を横断的に捉える最新の比較研究！



**日本高等教育の課題と挑戦**  
 比較研究と調査から  
 山田礼子・木村拓也・西野毅朗編著 A5・368頁・5520円  
 高等教育政策比較を主軸に学修成果の測定研究、STEMと人文・社会科学との融合、専門分野別のグローバル・コンピテンス修得の国際比較等、気鋭の研究者・教育者らが結集した成果。

**日米教師教育政策の研究**  
 教員スタンダード、ガバナンス、アカウンタビリティを中心に  
 牛渡淳編著 A5・440頁・6820円  
 教職の専門職的自律・民主性を特色とする米国カリフォルニア州の教師教育を政策・制度から分析し、日本の教員育成の全国調査と事例研究を比較し、日米の教師教育における民主的アカウンタビリティの可能性を探る。



**小さな学校、大きな共創**  
 内発性が紡ぐ韓国の教育エコシステム  
 尾崎公子・肥後耕生編著 A5・200頁・2970円  
 加速度的な少子化が進む韓国では、小さなマウル（村落）の学校が存亡の危機ある。存続をかけた試行錯誤する学校の取組の分析から自然豊かな環境や地域社会との協働を活かした新たな学校が生み出す教育的価値を照射する。

**フランスのシティズンシップ教育理念の展開**  
 共和制モデルの変遷に着目して  
 降旗直子著 A5・548頁・9790円  
 自由・平等・友愛、ライシテといった従来の共和的価値に人権や民主主義という新たな価値を付与し、フランス独自の普遍主義の礎である共和制理念や、公民教育が再興されるプロセスをたどる。シティズンシップ教育必読書。



**学長の独り言**  
 悲喜こもももの第一期四年間  
 大塚豊著 46・224頁・1980円  
 学会会長も務めた著者が、激変する大学経営の中で私立大学の学長として綴った四年間の「短信」エッセイ集。リスキリング、教職協働、IR、地域連携、国際交流等、地域との繋がりを見つけながら地方大学組織の活力ある地道の実像を立体的に描き出す。

**主体性総論**  
 学びと成長の講話シリーズ6  
 主体性とは何か、なぜこれほど求められるのか  
 溝上慎一著 46・192頁・1760円  
 世界で重視される「主体性」概念をその起源と理論、現在の施策と教育実践から体系的に整理・分析した【学びと成長の講話シリーズ】第6弾。主体性理解と現場の混乱を解消する話題の書。



〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6  
 HP <http://www.toshindo-pub.com>  
 ☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514  
 ✉ toshindo\_onlineorder1985@gmail.com  
 ☎ tk203444@sinet.or.jp (代表)

\* 博覧書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

BOOK TALK SESSION 企画図書

日本で暮らすムスリムの子どもたちの教育

イスラームを学ぶ・生きる・継承する

服部美奈 監修 内田直義、千田沙也加、中島悠介、松本麻人、見原礼子 編著 ◎3850円

多様な声に耳を傾けて試行錯誤を重ねる公立学校、そして新しい教育の選択肢として模索を続けるイスラーム学校。ムスリムの子どもたちとともにあって日々成長する「学校」のダイナミズムを、綿密かつ広範にわたる調査をもとに描き出す。



多様性を志向する教師教育

各国の文脈に根ざした多彩な姿をひもとく

佐藤仁、伊藤亜希子 編著 ◎4950円

世界各国において児童生徒の多様性が高まっているなか、そうした状況を前提とした学校で働く教師の養成や研修が求められている。世界8か国の比較分析をとおして、多様性のさまざまな次元から、その傾向を探るとともに、日本における多様性を志向する教師教育の進展にもけたヒントを探る。



おすすめの近刊図書と話題書

難民がつくる学校教育

シリア人学校はいかにトルコで創られ、人びとを繋ぎ、支えたのか

ガラウインジ山本 著 ◎4950円

トルコのシリア国境地域における綿密な現地調査にもとづいて、そこに難民として暮らすシリアの人びとが築き上げた学校教育の多様性、多面性、ダイナミズムを描き出し、人びとの営みの総体としての学校教育の役割を明らかにする。



エスノセントリズム

〈集団〉と〈境界〉を理解するための統合的視座

ポリス・ビズミック 著 石部尚登 訳 ◎3850円

エスノセントリズム——自らの民族集団がきわめて重要で、他のどの民族集団よりも優れ、価値があるという信念や態度は、どのように形成され、何をもたらすのか。心理学、政治学、社会学、人類学、生物学、マーケティング研究など、学際的なアプローチによる統合的な視点からこの概念の本質、要因、帰結を明らかにする。



韓国の小学校教員養成

日韓比較からみる教職選択と教師像

朴聖希 著 ◎4950円

目的型の教員養成体制を探る韓国の教育大学の学生は、いつ、いかなる動機で教員を志し、どのようなキャリア像を描くのか。制度や社会的背景が学生の意識に及ぼす影響を考察し、日本の教職志望学生との比較を通じて、日韓の教員養成体制の特徴や課題に迫る。



アジアと中東におけるトランスナショナル高等教育

外国大学分校と国際共同大学の持続性

上別府隆男 編著 ◎5940円

高等教育の教育プログラムと教育機関の国際移動が活発なアジア・中東における外国大学分校（IBC）と国際共同大学（IJU）に焦点を当てた11の事例研究を通し、プロバイダー側とホスト国が醸成するハイブリッド性の観点から持続的なあり方を展望する。



多文化保育のエスノグラフィー

文化的多様性の包摂と公正さをめざして

長江侑紀 著 ◎4400円

多文化コミュニティに焦点を当てた綿密なフィールド調査をもとに、具体的なエピソードや事例を通じて、文化的・言語的に多様な背景のある子どもたちのニーズに応える多文化保育の理論を実践的に検証し、さらに進化させるための新たな道筋を探る。



日本と台湾の移民政策

多文化共生社会の形成に向けて

山脇啓造、日暮トモ子 編著 ◎2970円

少子高齢化や人口減少、外国人労働者受け入れという共通の課題をもつ日本と台湾の移民政策の動向を、一部韓国の政策も参照しつつ論じる。さらに、介護、教育、福祉の各分野で日台の比較を行い、日本の多文化共生社会の形成に向けた統合政策的課題を浮き彫りにする。



北欧の教育新潮流 未来につなぐ子育てと学び

佐藤裕紀、林寛平、中田麗子、本所恵、北欧教育研究会 編著 ◎2420円

大学リスキング教育 高等教育が拓くキャリアの持続可能性

新居田久美子 著 ◎2860円

教育への異文化間アプローチ 理論から実践へ

アブデルジャリル・アッカリ、ミアム・ラドワン 著 ◎3520円

つまらない中学をどう変えるか

フランス発 フレネ教育が拓く子どもの未来 ◎2750円

フランスの在宅教育支援とエデュケーター

親子まるごと支える価値と実践 安發明子 著 ◎2750円

移民第2世代のオートエスノグラフィー

当事者10人による意味世界の探究 樋口直人 ほか 著 ◎4180円

移民が増えて、いいことって何だろう？

対話と議論にむけた12のギモン 佐藤友則 著 ◎2200円

台湾植民地支配と学校教育

学校文書と人物研究からみる公学校の歴史 陳虹堯 著 ◎5940円

国際労働移動の社会学

日本の外国人労働者受入れ1985-2025 松下奈美子 編 ◎4950円

移民・難民の生存と受容 多様な主体・制度・実践

明石純一、佐藤麻理絵、首藤もと子 編 ◎4950円

若者支援政策の現在地

こども家庭庁/こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか ◎2970円

諸外国の教育動向 2024年度版

文部科学省 編著 ◎3960円

成人スキルの国際比較2

OECD国際成人力調査(PIAAC)第2サイクル報告書 ◎5940円

PISA2022年調査 評価の枠組み

OECD生徒の学習到達度調査 ◎4950円

TIMSS2023算数・数学教育/理科教育の国際比較

国際数学・理科教育動向調査の2023年調査報告書 ◎4950円

図表でみる教育

OECDインディケータ(2025年版) ◎9460円

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5

TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174 https://www.akashi.co.jp/

\*図書目録送呈 \*価格税込



## 若者たちが 学び育つ場所

ヨーロッパの早期離学対策の現場から  
園山大祐 編

早期離学する若者たちに対するヨーロッパの対策実態とは。日本を含めた各国の教育現場への調査から明らかにし、若者たちに必要な「教育」「場所」を検討する。  
36630円



## インクルーシブ教育 の比較社会学

日本とスコットランドの実践から  
伊藤駿 著

その実現を机上の空論としないために——国内外の先進的な実践現場での参与観察とインタビューから、インクルーシブな教育の障壁と実現可能性を考察。  
4620円



## 学校を離れる若者たち

ヨーロッパの教育政策にみる  
早期離学と進路保障  
園山大祐 編

早期に学校から離脱する若者たちに対する各国の政策実態とは。予防、介入、補償という観点から検討する。  
33000円



## 文系大学生は 専門分野で 何を学ぶのか

専門分野別習得度から考える  
本田由紀 編

学生時に習得した知識や学びは、仕事や卒業後にどう関連しているのか。  
2970円

## 移民から教育を考える

子どもたちをとりまくグローバル時代の課題 額賀美紗子・芝野淳一  
三浦綾希子 編 私たちの「当たり前」を問うために。  
2530円

## 文系大学教育は仕事の役に立つのか

職業的レトリバンスの検討 本田由紀 編 人文社会科学系の大学教育は仕事に役立っているのではないのか。  
2860円

## オルタナティブ教育運動の社会学

ネットワークのダイナミズムと公共性への挑戦 藤根雅之 著 「学校」という「あたりまえ」に抗する人々の実践や連携の技法とは。  
2640円

## 「最近の大学生」の社会学

2020年代学生文化としての再帰的ライフスタイル 小川豊武・妹尾麻美・木村絵里子・牧野智和 編著 貴重な大学生調査から。  
2970円

## 大学生の学びと成長

知識・他者・自分との関係から人生をつくる 河井亨 著 リフレクシオンとラーニング・テリッツングを軸に解説。  
2970円

## 高校教員のための探究学習入門

問いからはじめる7つのステップ 佐藤浩章 編著 質の高い探究者を育成するには。デザイン実施評価の方法を7ステップで解説。  
2420円

## 通常学級で活かす特別支援教育概論

柏崎秀子 編 合理的配慮を本流に置き、様々な発達段階にある子どもに個別支援対応するための具体的アイデアを提示。  
2200円

## ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕

井藤元 編 良い先生とはどんな先生で、良い授業とはどんな授業なのか。ワーク課題を通じて教育と教育学の基本を学ぼう。  
2860円

## ワークで学ぶ教育課程論〔増補改訂版〕

尾崎博美・井藤元 編 ワーク課題と授業案を通じて、「授業を受ける立場」から「授業をつくる立場」へと視点を転換していく。  
3080円

## キャリアを支える教職入門

ワークで探るこれからの教師と学校 小川翔太・久野弘幸 編著 教職の仕事や学校の最新動向への理解を深め、進路を考えよう。  
2530円

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
TEL 075-723-0111 FAX 075-723-0095  
<https://www.nakanishiya.co.jp/>【税込価格】



Advancing global education through equity, justice, and international perspectives

Explore leading book series and journal content from Emerald Publishing that foreground global perspectives, social justice, and comparative research in education. From teacher education and curriculum studies to higher education development and international policy, these publications amplify diverse voices, challenge dominant narratives, and support research that advances equity across global contexts.

**Featured series and journal include:**

- International Advances in Education: Global Initiatives for Equity and Social Justice
- Teacher Education in Global Contexts: Promoting Culturally Sustaining Teachers and Teacher Educators
- International Perspectives on Curriculum
- International Perspectives on Education and Society
- Global Perspectives on Higher Education Development
- International Journal of Comparative Education and Development



Discover scholarship that connects local educational realities with global debates - shaping more inclusive, socially just education systems worldwide.

Let us help with the best Education subject purchase solutions. Please contact for information: [epjapan@emerald.com](mailto:epjapan@emerald.com)



## 日本比較教育学会第 62 回大会準備委員会

### <委員長>

羽谷 沙織 (立命館大学)

### <事務局長>

細尾 萌子 (立命館大学)

### <委員>

石川 裕之 (京都女子大学)

坂口 真康 (大阪大学)

白銀 研五 (びわこ学院大学)

関口 洋平 (大阪公立大学)

堀江 未来 (立命館大学)

### <アシスタント>

東 侑希 (立命館アジア太平洋大学 / BRIDGE Institute)

Liang Xiaoxian (立命館大学研究機構 講師)

(氏名 50 音順)

## The 62nd Annual Conference Organizing Committee Japan Comparative Education Society

### Conference Chair

Saori Hagai (Ritsumeikan University)

### Secretary General

Moeko Hosoo (Ritsumeikan University)

### Organizing Committee Members

Hiroyuki Ishikawa (Kyoto Women's University)

Masayasu Sakaguchi (The University of Osaka)

Kengo Shirogane (Biwako-Gakuin University)

Yohei Sekiguchi (Osaka Metropolitan University)

Miki Horie (Ritsumeikan University)

### Assistants

Yuki Azuma (Ritsumeikan Asia Pacific University / BRIDGE Institute)

Liang Xiaoxian (Lecturer, Ritsumeikan University Research Organization)

---

### 発行

日本比較教育学会第 62 回大会準備委員会  
羽谷沙織 (大会準備委員会委員長) 気付

### Published by

The 62nd Annual Conference Organizing Committee  
Japan Comparative Education Society  
C/O Dr. Saori Hagai, Chair

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北 56-1  
立命館大学 衣笠キャンパス  
E-mail : [jces62rits@gmail.com](mailto:jces62rits@gmail.com)

Ritsumeikan University, Kinugasa Campus 56-1 Tojiin  
Kitamachi, Kita-ku, Kyoto 603-8577, Japan  
E-mail: [jces62rits@gmail.com](mailto:jces62rits@gmail.com)